

(案)

協議資料 1

丸森町 地域公共交通計画

【3月21日版】



令和 年 月

丸 森 町

目次

1. 計画概要	1
1-1 計画の背景と目的	1
1-2 計画の位置づけ	1
1-3 計画の区域	2
1-4 計画の期間	2
2. 地域の現状と特性	3
2-1 地勢的特性	3
2-2 人口の推移	4
2-3 地区別の人口	5
2-4 観光資源と観光客入込数の現状	7
3. 地域公共交通の現状	8
3-1 地域公共交通の概況	8
3-2 阿武隈急行線	11
3-3 町民バスとデマンド交通あし丸くん	13
3-4 筆甫地区自家用有償運送	17
4. 地域公共交通の課題とあり方の方向性	18
4-1 上位計画の整理 ～第五次丸森町総合計画～	18
4-2 関連施策の整理 ～観光施策～	19
4-3 関連施策の整理 ～福祉施策～	20
4-4 住民アンケート調査結果	21
4-4 地域公共交通の課題の整理	29
5. 基本方針と戦略・事業	30
5-1 丸森町が目指す地域公共交通の将来像	30
5-2 基本方針	30
5-3 地域公共交通の将来像	31
5-4 地域公共交通の分類と位置づけ	32
5-5 目標・数値指標の設定	33
6. 本計画の目標を達成するための施策	34
6-1 地域公共交通施策の体系	34
6-2 施策の体系	35
6-3 施策別の事業内容・実施主体・スケジュールの詳細	36
6-4 推進体制	41
6-5 評価の方法及びスケジュール	41

1. 計画概要

1-1 計画の背景と目的

本町の地域公共交通は、鉄道の阿武隈急行線、町民バス、デマンド交通あし丸くん、白石市が運行する白石市民バスが運行しています。これらの地域公共交通は、高齢者や障がいのある人のみならず、すべての町民の移動手段として重要な役割を果たしている一方で、自家用車の普及や少子高齢化に伴う人口減少に伴う地域公共交通の利用者数の減少、地域公共交通の運行を担うドライバーの高齢化や慢性的な人手不足等により、安定的に地域公共交通を維持していくことが厳しい状況となってきました。

このような状況にあっても、将来にわたり町民にとっての移動手段である地域公共交通を維持していくためには、運行を担う交通事業者の経営努力のみならず、行政、町民、団体、企業など、地域全体で利用促進を図るとともに課題を認識することが重要であり、そのため、現在の地域の実情と地域公共交通の現状や課題を踏まえ、持続可能な地域公共交通体系の構築に向けて、地域全体で取り組むマスタープランとなる「丸森町地域公共交通計画」を策定します。

1-2 計画の位置づけ

本計画は、「第五次丸森町総合計画」を上位計画として、基本方針8「住み続けたいと思える快適で魅力的なまちづくり」の実現を目指します。また、関連計画として「丸森町観光振興計画」「第2期丸森町地域福祉計画」との整合や連携を図りながら、本町における地域公共交通の方向性とその具体的な施策を示すものであり、地域公共交通政策を推進するマスタープランとして位置づけます。

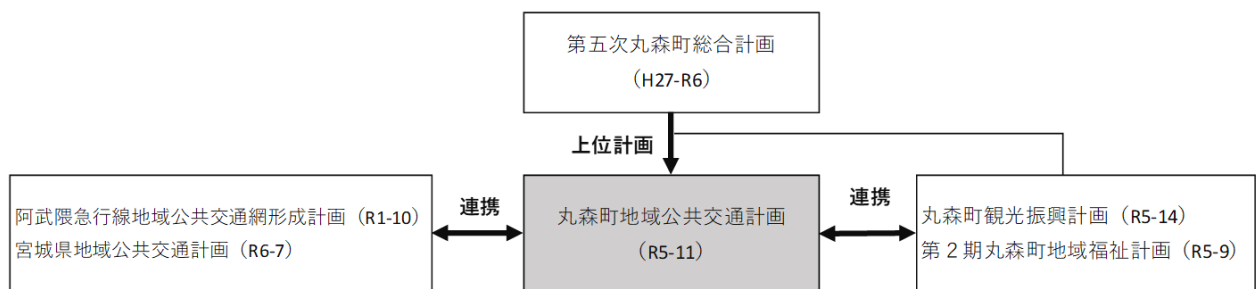


図 1-1 本計画の位置づけ

1-3 計画の区域

本計画の対象区域は、丸森町全域とします。

1-4 計画の期間

本計画の計画期間は、第五次丸森町総合計画や次期総合計画の前期期間との調整を図るため、令和5年度から令和11年度までの7年間とします。なお、社会情勢や住民ニーズの変化などに柔軟に対応するため、必要に応じて計画の見直しを行うこととします。

表 1-1 計画期間

計画	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度	令和15年度	令和16年度
総合計画	第五次総合計画（平成27年～令和6年度）													
					第六次総合計画（令和7年～16年度） 前期（令和7年～11年度）、後期（令和12～16年度）									
本計画			本計画（令和5年～11年度）											

2. 地域の現状と特性

2-1 地勢的特性

- ◇ 宮城県の南端に位置し、生活圏域は仙台市・福島県方面にも広がっている。
- ◇ 広大な町面積の大半が山林で占められ、その中にも住宅や集落が点在している。

本町は宮城県の南端に位置し、南西は福島県に隣接しています。総面積は 273.30km² で、北部を阿武隈川が貫流し、その流域と支流一帯が平坦地を形成しています。一方、南東部は 500 メートル級、北西部は 300 メートル級の阿武隈山脈の支脈で囲まれた盆地状の町です。また、面積の約 70%を山林が占め、そのほとんどが中山間地域です。

宮城県沖を流れる暖流の影響を受けた温暖な地域で、多くの動植物の北限、南限の地となっており、恵まれた自然環境に加え気候を生かして様々な野菜や果物などが栽培されています。

交通網としては、周辺市町と本町を結ぶ基幹的な公共交通である阿武隈急行線が南北に通り、国道 113 号、349 号を基軸とした道路ネットワークが形成されています。また、常磐自動車道や東北中央道相馬・福島間が開通し、東北から関東への高速交通網が整備されたことで高速交通へのアクセス性が向上しています。



図 2-1 地域概況

2-2 人口の推移

- ◇ 人口は毎年 300 人前後（人口の 2～3％）減少しており、今後も減少が見込まれる。
- ◇ 高齢化は進行し続けているが、65 歳以上人口は令和 2 年をピークに減少に転じている。

本町の令和 5 年 3 月末時点の総人口は 12,108 人で、平成 28 年の総人口と比較すると、約 2,000 人減少しています。「まち・ひと・しごと創生総合戦略」によると、人口は今後も減少していくことが予想されており、令和 22 年には 10,000 人を下回る見込みです。

高齢化率（65 歳以上）は、44%と県内で 2 番目に高い状況となっています。しかし、65 歳以上人口は令和 2 年をピークに減少に転じています。（図 2-3）

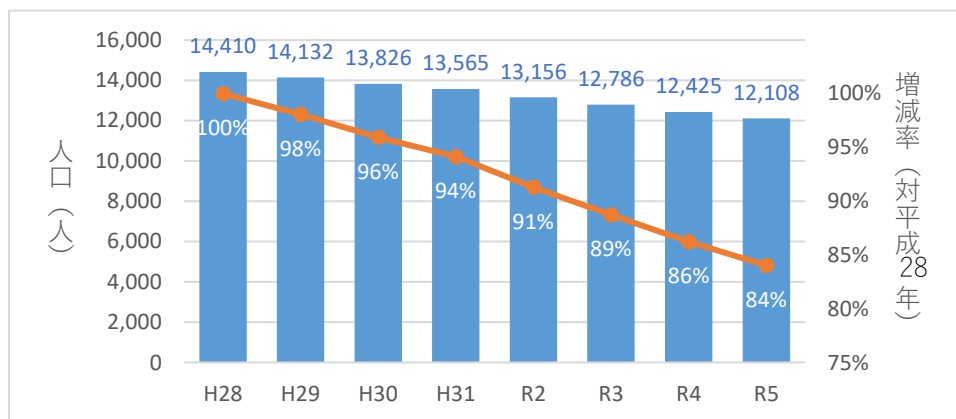


図 2-1 人口の推移

資料：住民基本台帳調査（各年 3 月末現在）

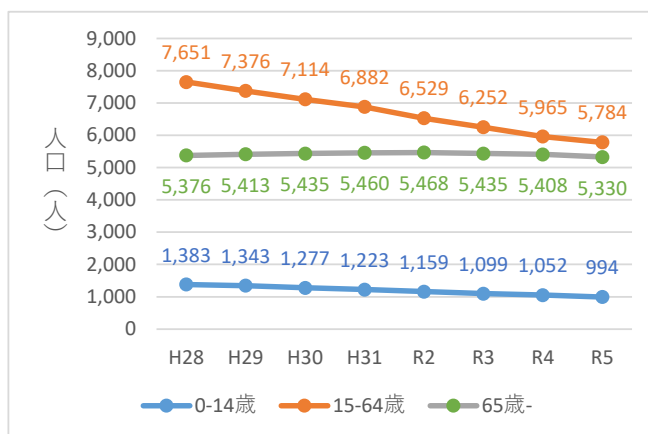


図 2-2 世代別人口の推移

資料：住民基本台帳調査（各年 3 月末現在）

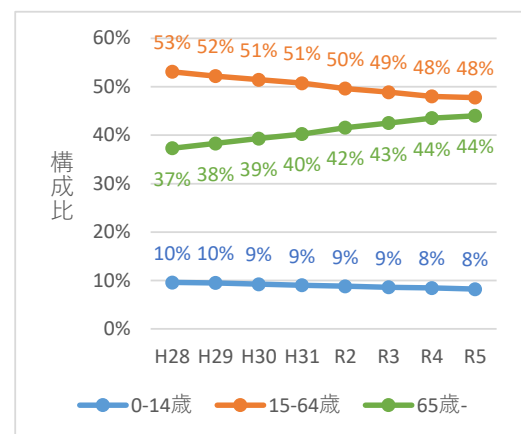


図 2-3 世代別人口率

資料：住民基本台帳調査（各年 3 月末現在）

2-3 地区別の人口

- ◇ 町内の人口は、丸森地区と館矢間地区の町内中心部に全体の 55%が集中している。
- ◇ 山間部でも特に筆甫地区、耕野地区は人口が少なく、高齢化率も高くなっている。

本町は8地区に分けられ、それぞれの地区別人口は、丸森地区、館矢間地区、大内地区が多く、中心部に人口が集中し、丸森地区と館矢間地区で町内全体の 55%を占めています。一方、人口が少ないのは筆甫地区、耕野地区、大張地区で、人口減少率も筆甫地区、耕野地区の減少が大きく、年々地区ごとの人口の差が大きくなっています。また、高齢化率は筆甫地区で 61%と耕野地区で 52%と高い状況です。（表 2-1）

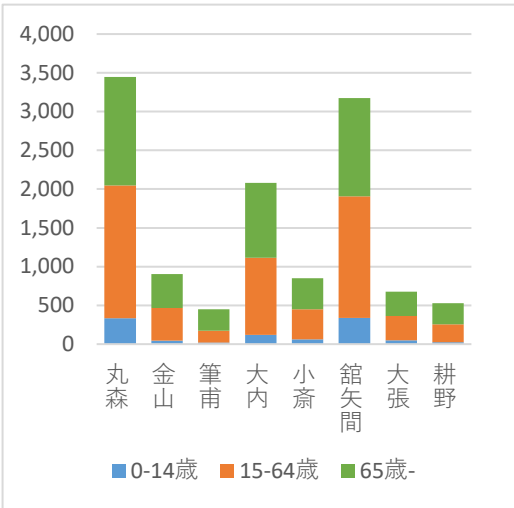


図 2-4 世代別人口
資料：前掲書

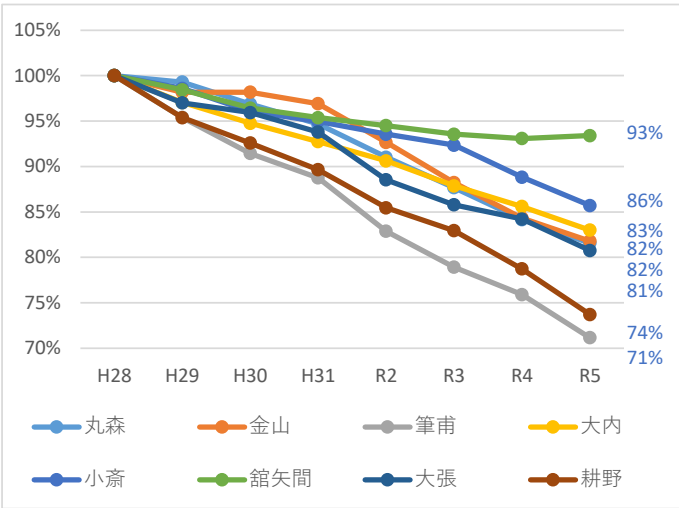


図 2-5 地区別の人口減少率（対 H28）
資料：前掲書

地区	丸森	金山	筆甫	大内	小斎	館矢間	大張	耕野	合計
総計 (人)	3,447 人	903 人	449 人	2,080 人	852 人	3,174 人	676 人	527 人	12,108 人
15歳未満	333 人	47 人	19 人	120 人	61 人	338 人	51 人	25 人	994 人
15～64歳未満	1,716 人	418 人	156 人	995 人	388 人	1,567 人	314 人	230 人	5,784 人
65歳以上	1,398 人	438 人	274 人	965 人	403 人	1,269 人	311 人	272 人	5,330 人
高齢化率	41 %	49 %	61 %	46 %	47 %	40 %	46 %	52 %	44 %

表 2-1 地区別の人口と高齢化率

資料：住民基本台帳調査（令和 5 年 3 月末現在）

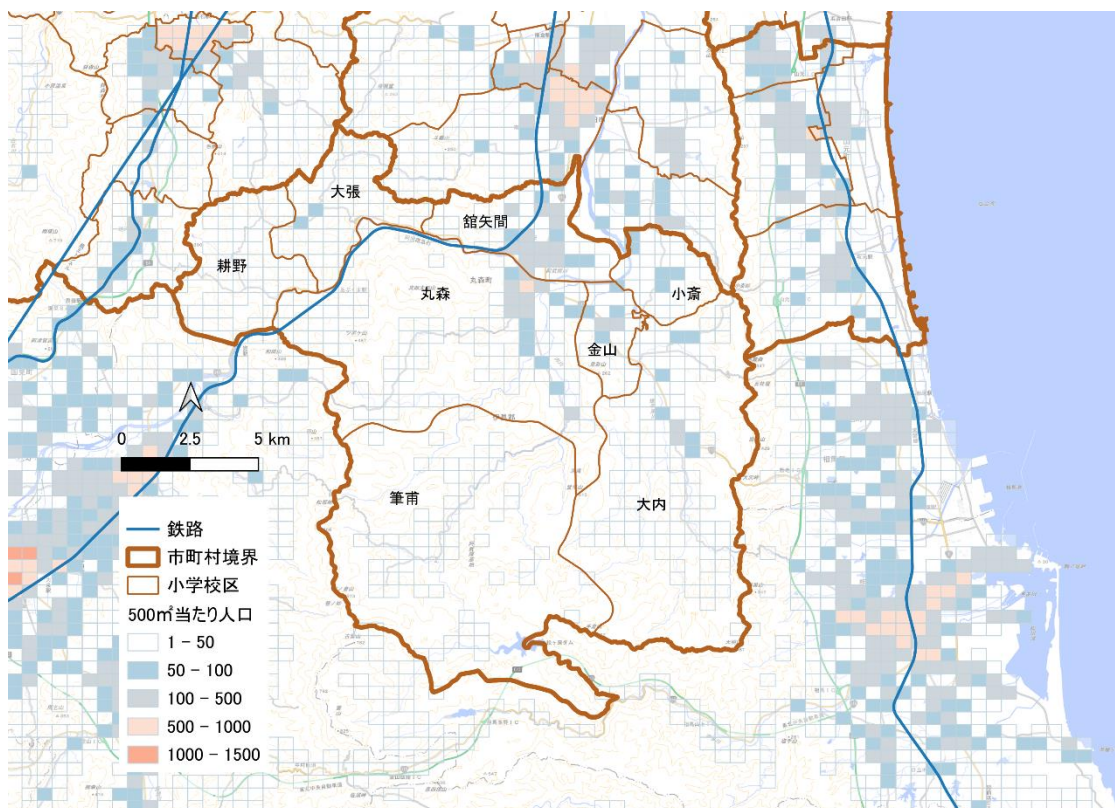


図 2-5 500m メッシュ当たりの人口（令和 2 年）

資料：国土地理院地図情報、国勢調査 2020 年

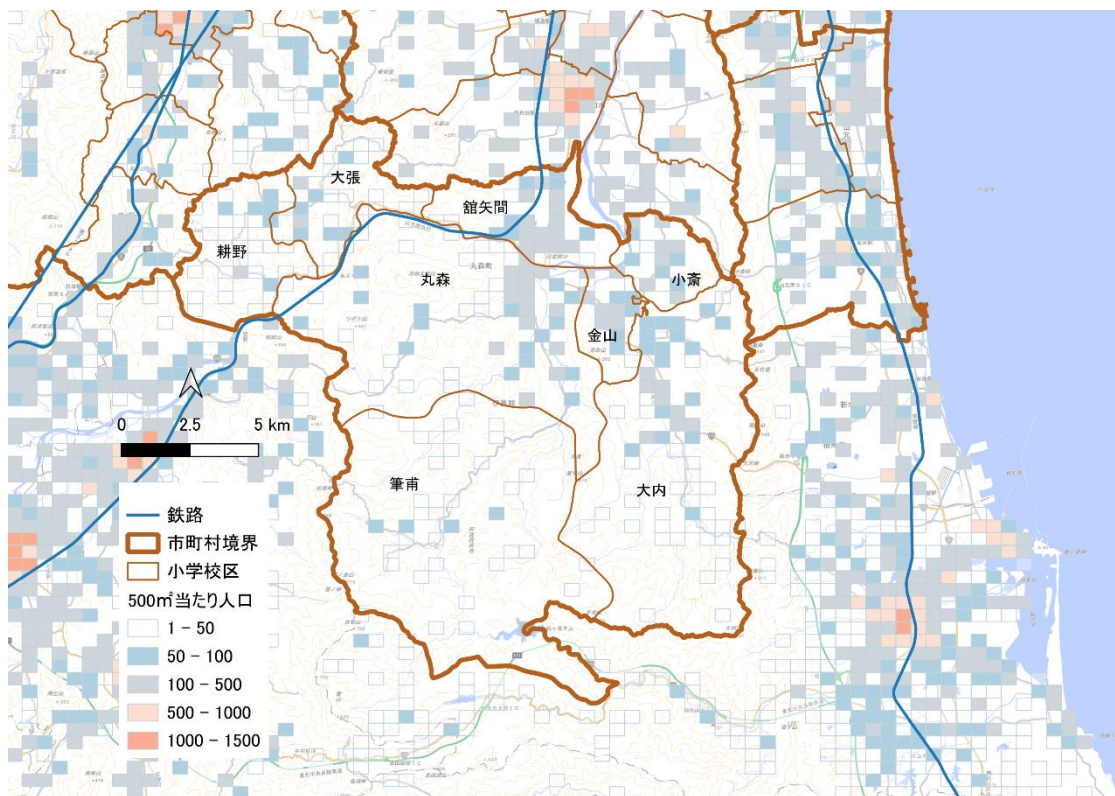


図 2-6 500m メッシュ当たりの人口（平成 7 年）

資料：国土地理院地図情報、国勢調査 1995 年

2-4 観光資源と観光客入込数の現状

◇ 観光客入込数は平成 26・27 年には 60 万人を超えたものの、令和元年東日本台風災害と新型コロナウイルス感染症蔓延（令和 2 年）以降は 40 万人を下回っている。

本町には、阿武隈ライン舟下りや齋理屋敷、県立自然公園の指定を受けている不動尊公園を中心としたエリアが主要な観光地となっていますが、近年は来訪者のニーズの多様化によってさまざまな目的で訪れる人が見られます。

観光客入込数は、平成 26、27 年には 60 万人を超えたものの、その後減少傾向で推移してきました。

さらに、令和元年に発生した東日本台風災害、令和 2 年からは新型コロナウイルス感染症の影響を受けて大きく減少し、令和 2 年以降は 40 万人を下回っています。（図 2-7）

令和元年の月別入込客数をみると、5 月が最も多く、次いで 8 月、9 月の夏休み期間中が多くなっています。（図 2-8）

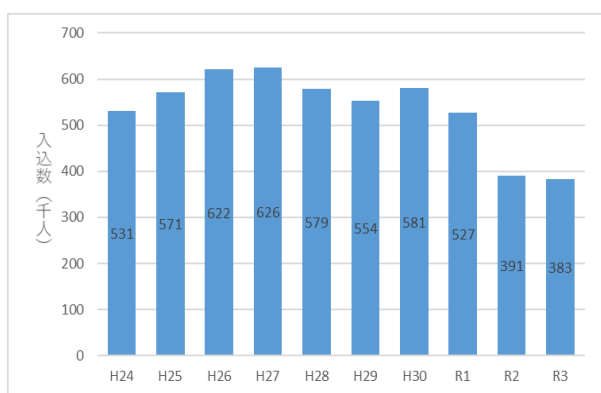


図 2-7 丸森町の観光客入込数
資料：宮城県観光統計概要

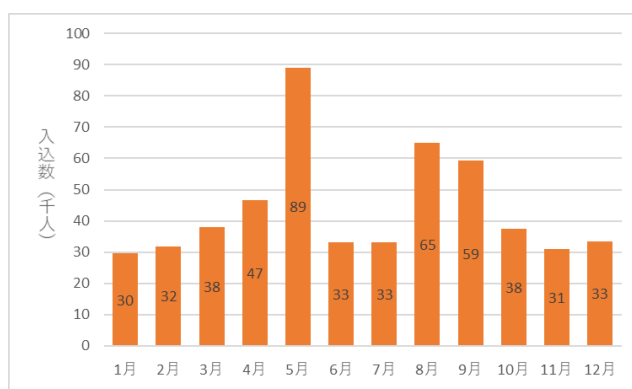


図 2-8 月別の観光客入込数（令和元年）
資料：「宮城県観光統計概要」



図 2-9 丸森町内の観光資源

資料：丸森町資料

3. 地域公共交通の現状

3-1 地域公共交通の概況

- ◇ 町内には阿武隈急行線と、町民バスのほか、デマンド交通あし丸くんが運行している。
- ◇ 現在は交通事業者 1 社が町内の町民バスをはじめデマンド交通あし丸くん、スクールバスの運行を担っている。

(1) 町内の地域公共交通の概要

町内には、阿武隈急行線の駅が3駅（あぶくま駅、丸森駅、北丸森駅）があり、町民バス、デマンド交通あし丸くん、白石市民バスが運行しています。

町民バスは、6路線（大内線、肱曲線、大耕線、峠線、羽出庭線、るんるん号）を運行していますが、そのうち2路線（峠線、羽出庭線）は小中学生のスクールバスに混乗する形で運行しています。るんるん号は、土日祝の観光客に対応するため、阿武隈急行線のダイヤに合わせた運行しています。

本町と周辺市町を結ぶ広域的な路線は3路線で、大内線が町内から角田市内まで運行しているほか、白石市民バス2路線（大張線、白角線）が町内の大張地区から白石市内を結び運行しています。

また、デマンド交通あし丸くんは全地区をカバーしており、便数もエリアによって変わりますが、4往復以上を確保しています。

なお、令和3年11月からは、全ての町民バス路線とデマンド交通あし丸くんの運行を町内の交通事業者1社が担っています。

表 3-1 地域公共交通の路線・系統の整理

交通モード	路線名	運営方法	経路	便数	備考
鉄 道	阿武隈急行線	第三セクター	槻木～丸森～梁川～福島	25 往復	
定時 定路線型 (町民バス)	大内線	運行委託	大内～丸森駅～角田ターミナル	平日 3 往復	200 円、400 円
	肱曲線	運行委託	キャンプ場入口～丸森駅	平日 3 往復	200 円
	大耕線	自家用有償 (空白地)	丸森病院～大耕センター ～丸森病院	平日 朝 1 循環	白石市市民バス大張 線や大内線へ接続
	峠線	無償運行	峠～欠入～丸森病院	平日、朝 1 便	SB 混乗、無料 大内線へ接続
	羽出庭線	無償運行	大巻～丸森病院	平日、朝 1 便	SB 混乗、無料 大内線へ接続
	るんるん号	運行委託	丸森駅～キャンプ場入口	土日祝日 6 往復	1 回 100 円
デマンド 交通	あし丸くん	運行費補助	1) 丸森・館矢間エリア	行き 8、帰り 7	1 回 400 円 平日のみ 1 時間前予約
			2) 金山・小斎エリア	行き 7、帰り 8	
			3) 大内エリア	行き 4、帰り 5	
			4) 筆甫エリア	行き 5、帰り 4	
			5) 丸森山間部エリア 6) 大張・耕野エリア	行き 5、帰り 5	
定時 定路線型 (白石市民 バス)	大張線	自家用有償 (空白地)	刈田病院～白石駅～大張ま ちづくりセンター	平日 4 往復	200 円
	白角線	〃	刈田病院～白石駅～柳沢公 民館	平日 4 往復	200 円
住民主体	—	自家用有償 (空白地)	筆甫地区内 筆甫地区～福島県相馬市	予約制	地区内 片道 100 円 地区外 片道 1,000 円

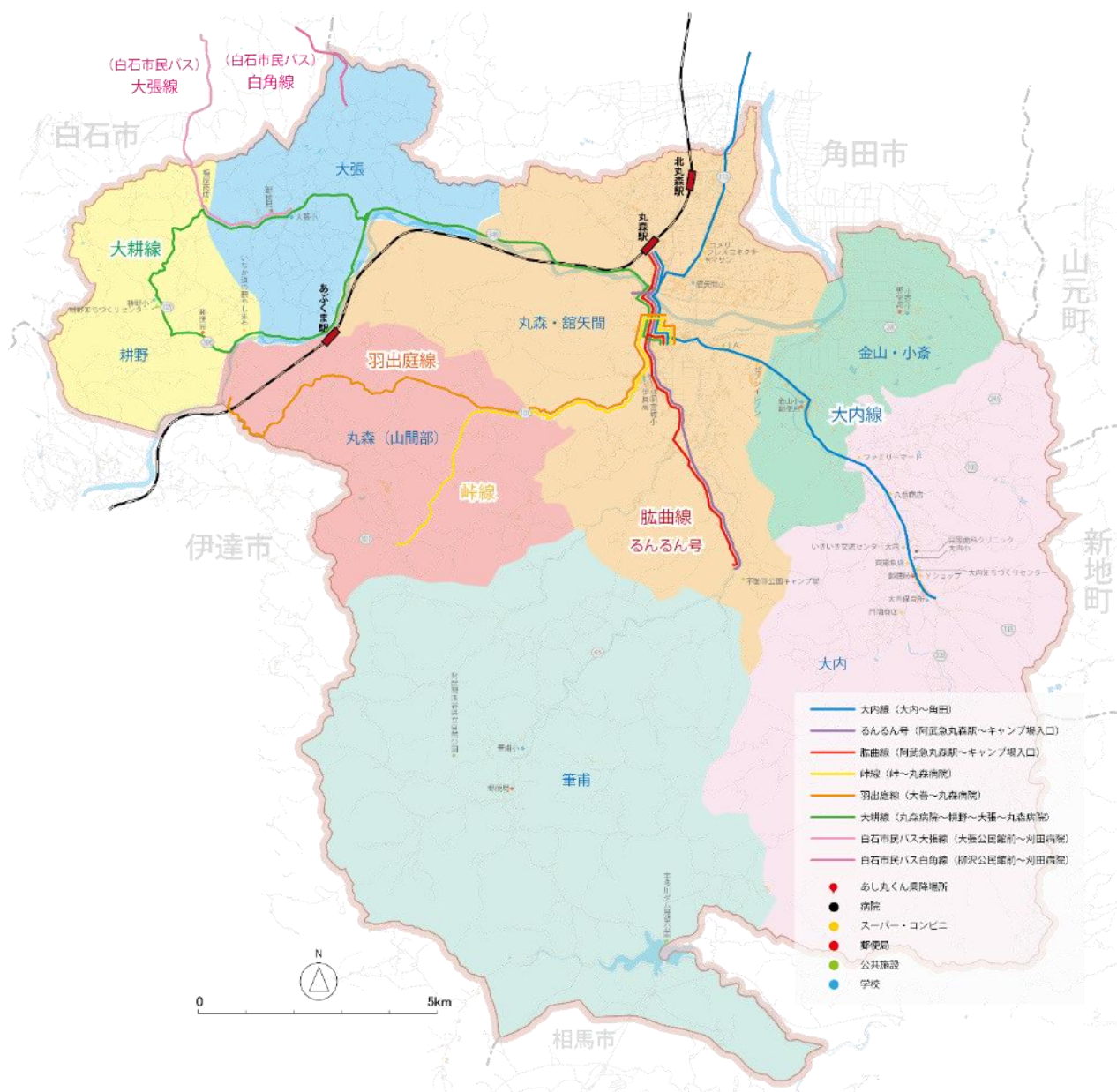


図 3-1 地域公共交通の概況



阿武隈急行線



町民バス



デマンド交通あし丸くん

(2) デマンド交通あし丸くんの運行概要

デマンド交通あし丸くんは、平成 20 年に運行を開始し、令和 5 年で 16 年目を迎えます。

丸森町商工会が運営主体となって、自宅からまちなか拠点へ向かう便とまちなか拠点から自宅へ向かう便を運行しています。

運行日は、月曜日から金曜日までで、利用する 1 週間前から予約を受付ており、当日の 1 時間前までに予約をすることで利用できます。空き店舗を活用した予約センターを設置し、センター職員がパソコン上の配車システムを使って車載器に配信されるシステムで配車管理されています。

運行エリアを町内 6 エリアに分けて、それぞれ 1 台の車両でカバーしています。令和 3 年 10 月まで町内のタクシー会社 2 社が 3 エリア 3 台ずつ運行を行っていましたが、11 月からは 1 社が全てのエリアを担っています。



丸森町予約型乗合タクシー あし丸くん

保存版
利用ガイド

受付時間：午前7:30～午後4:00

予約センター ☎ **73-1515**

運行日は月～金（土・日・祝日・年末年始は運休）

電話予約の方法

- 下記ダイヤの利用したい日の1時間前までに予約の電話をしてください。（ただし、朝の1便目は前日までに予約してください。予約は1週間前から受け付けます。）
- 予約の際は、必ず下記のことを書いてください。

①「行政区」 ②「お名前」
③「何時の便を利用するか」
④「行き」「どこまで乗るのか」
（帰り）「自宅の電話番号」
「どこから乗るのか」

料金：1回400円（片道）

（子ども・障がい者は200円）
※回数券をお求め下さい。（予約センターや車内等で取扱いしております）



●運行ダイヤ表

1便目の予約は前日までにお願いいたします。平成31年4月1日現在、予約は運行時刻の1時間前（帰りは）までの早めにご予約下さい。

系統	時刻	運行方向
丸森(平)～新所	8:30	行き
	9:30	行き
	10:30	行き
	11:30	行き
	13:30	行き
	14:30	行き
	15:30	行き
	16:30	行き
	9:00	帰り
	10:00	帰り
丸森(山)～大田	8:30	行き
	9:30	行き
	10:30	行き
	11:30	行き
	13:30	行き
	14:30	行き
	15:30	行き
	16:30	行き
	9:30	帰り
	10:30	帰り
丸森(山)～大田	8:30	行き
	9:30	行き
	10:30	行き
	11:30	行き
	13:30	行き
	14:30	行き
	15:30	行き
	16:30	行き
	9:30	帰り
	10:30	帰り

※丸森(平)～新所：下記以外
※丸森(山)～大田：丸森、新所、羽出、小坂木

●まちなか拠点

※拠点とは、乗降できる場所のことです。

区分	施設名
公共施設等	役場、商工食、福祉センター、市民会館、丸森中学校、ふるさと館、やまゆり館、あし丸くん予約センター
	丸森病院、山本病院、三井病院、豊後整形外科、丸森歯科、谷津産科、たてやま産科、丸森産科、丸森産科、サイの産科、丸森産科、丸森産科
	丸森産科、丸森産科、丸森産科、丸森産科、丸森産科、丸森産科、丸森産科、丸森産科
	丸森産科、丸森産科、丸森産科、丸森産科、丸森産科、丸森産科、丸森産科、丸森産科
商業施設等	丸森産科、丸森産科、丸森産科、丸森産科、丸森産科、丸森産科、丸森産科、丸森産科
	丸森産科、丸森産科、丸森産科、丸森産科、丸森産科、丸森産科、丸森産科、丸森産科

1. 利用者

電話で予約
（予約電話番号）
73-1515

2. 予約センター（新所）

スタッフで電話で対応します。

3. 利用者宅付近から

あし丸くんを待ち合わせして乗車します。

4. まちなか拠点へ

あし丸くんを待ち合わせして乗車します。

1. 利用者

電話で予約
（予約電話番号）
73-1515

2. 予約センター（新所）

スタッフで電話で対応します。

3. まちなか拠点から

あし丸くんを待ち合わせして乗車します。

4. 利用者宅付近へ

あし丸くんを待ち合わせして乗車します。

あし丸くんをご利用頂く場合、予約状況等により、時間が早まる可能性がありますので早めにご準備をお願いします。



空き店舗を活用した予約センター



予約受付の風景

チラシ（平成 31 年 4 月 1 日付）

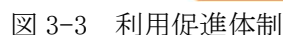
◇ 阿武隈急行線全線の乗降人員数は、平成7年度をピークに減少傾向が続いている。

阿武隈急行線は、昭和 61 年に国鉄丸森線の廃止により誕生した第三セクターで、福島市（福島駅）と柴田町（槻木駅）を結ぶ延長 54.9 km の鉄道です。（図 3-2）

町民の生活を支える社会基盤として通勤・通学・通院・買い物の利用や観光客の利用など、本町にとって重要な役割を担っています。

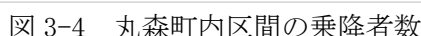
人口減少や少子高齢化に加え、近年では新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数の減少傾向に拍車がかかっている状況です。

このような状況に対して、福島県と宮城県の両県及び沿線市町が連携して「阿武隈急行線地域公共交通網形成計画」を策定し、運行の維持に向けて様々な活性化策に取り組んでいます。（図 3-3）



資料：阿武隈急行線地域公共交通網形成計画
(平成 31 年 7 月策定)

資料：阿武隈急行株式会社資料



丸森町阿武隈急行線利用促進協議会

丸森町阿武隈急行線利用促進協議会は、昭和 63 年 7 月の阿武隈急行線全線開通時に丸森町長を会長とし、全町議会議員、各地区の行政運営推進委員会会長、各住民自治組織会長、各教育機関、各種団体代表を構成員として、阿武隈急行線を地域住民の足として利用するとともに、産業、経済、文化の発展と沿線市町との交流を広げようと設立された団体です。

令和 5 年 4 月現在の委員数は 55 名で、丸森町からの補助を受けて、阿武隈急行線の利用促進に資するための施策の調査研究や阿武隈急行が行う事業への協力など、各種事業を実施する重要な役割を担っています。

表 3-2 阿武隈急行線利用促進協議会が実施する事業

サービス	① 運賃助成事業（一般団体半額・学校等利用全額補助） ② 観光客への「お買物券」進呈事業 ③ 阿武急利用ポイントカード事業 ④ 無料自転車貸出と管理 ⑤ 町内小学校へのフリー切符配布
周知	① 阿武隈急行線時刻表の配布 ② 雑誌等への広告開催
イベント	① あぶQウォークおもてなし事業 ② 各種イベントへの協賛 （サイクルフェスタ、ウォークラリー大会など）
環境整備	① 丸森駅花壇の植栽や維持管理（各種団体の協力による） ② 北丸森駅駐車場・トイレの維持管理 ③ あぶくま駅周辺の維持管理

3-3 町民バスとデマンド交通あし丸くん

(1) 利用状況

町民バスとデマンド交通あし丸くんの利用者数の推移は、図 3-5 のとおりですが、すべての路線において減少が続いております。

デマンド交通あし丸くんの令和 4 年度の利用者は 8,377 人で、平成 21 年度をピークに利用者の減少が著しく、平成 21 年度に比べて 39%まで減少しています。

大内線の令和 4 年度の利用者は 7,041 人で、比較的減少率が低く 76%にとどまっています。

肱曲線については、令和元年東日本台風災害により、運行経路を肱曲からキャンプ場にしたことや新型コロナウイルス感染症の影響により、最も利用が多かった平成 22 年度から令和 2 年度を比較すると 22%まで減少しております。利用者は若干回復傾向にあるものの、令和 4 年度ではピーク時に比較し 26%となっています。

観光客に対応する、るんるん号については、新型コロナウイルスの影響も受けて減少が著しくピーク時の 28%まで減少しています。

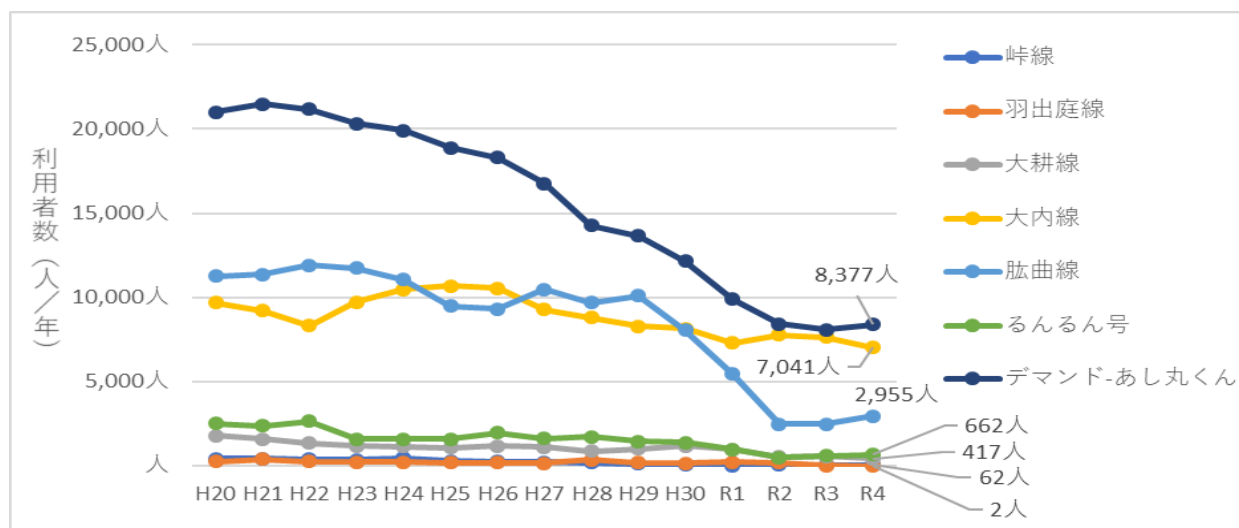


図 3-5 利用者数の推移

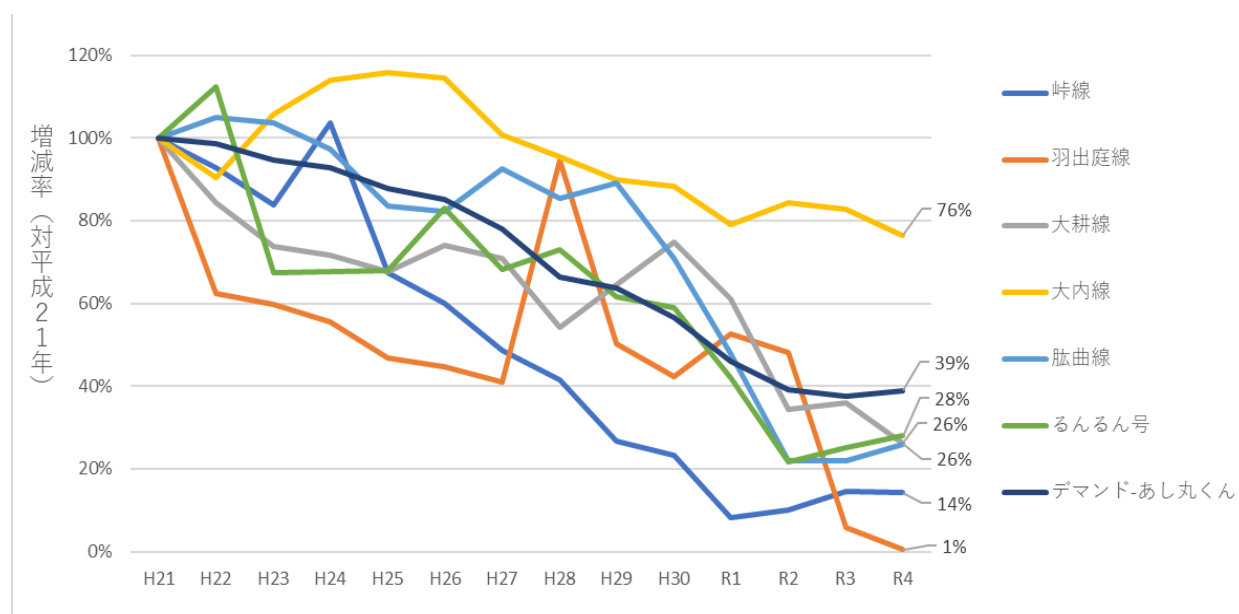


図 3-6 利用者数の増減率（平成 21 年度との比較）

（２） 町民バスの利用者と運行経費の推移

町民バス全体の利用者は、少子高齢化に伴う人口減少や令和元年東日本台風災害や新型コロナウイルス感染症の影響など様々な要因により減少しております。（図 3-7）

令和４年度の年間の運行委託費では、便数の多い大内線が 805 万 9 千円、肱曲線が 709 万 1 千円、るんるん号が 381 万 1 千円、大張線が 116 万 6 千円となっており、羽出庭線と峠線は年間 30 万円ほどとなっています。（図 3-7）

町民バスの運行委託費は、路線別の運行経費から運賃収入を差し引いて算出しております。羽出庭線及び峠線については、1 回当たりの運行経費単価に運行日数を乗じた金額が本町へ請求されています。

運行経費では、燃料費や修繕費などの維持管理費が増加傾向にあり、経費の適正化に向けた見直しが課題となっています。（図 3-8）

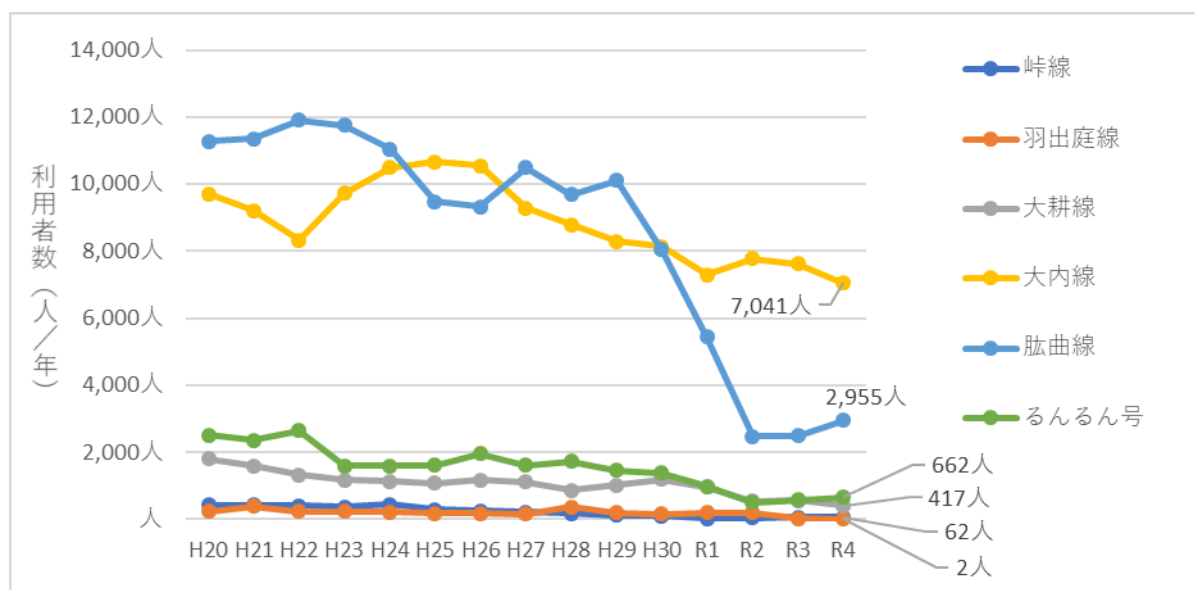


図 3-7 利用者の推移

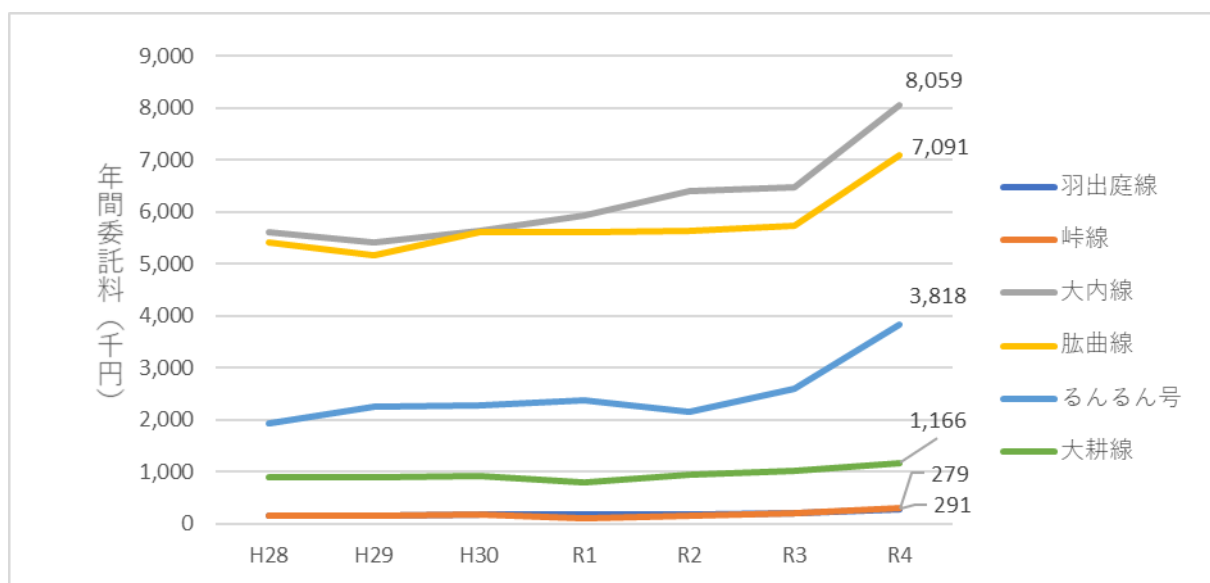


図 3-8 年間委託料の推移（町民バス）

（３） デマンド交通あし丸くんの利用者と運行経費の推移

デマンド交通あし丸くんの利用者数は平成 21 年度をピークに減少し続けています。令和元年東日本台風災害の影響により、令和元年度からは年間の利用者数が 10,000 人を下回り、さらに新型コロナウイルス感染症による外出自粛等の影響もあり利用者数の減少に拍車がかかっています。（図 3-9）

1 日あたりの利用者数では、令和 3 年度が 33 人、令和 4 年度は 46 人で、前年度より 7 人多く若干、回復傾向にありますが、平成 20 年度と比較すると半分以下の利用者数に落ち込んでいます。（図 3-10）

一方で、運行経費である補助金は増加傾向であり、令和 4 年度には 5 千万円を超え、利用者 1 人あたりにすると 6 千円を超える費用が発生しています。

補助金の中には、6 台の車両の借上げ、配車システム料が大半を占めており、経費の適正化に向けた見直しが課題となっています。（図 3-10、3-11）

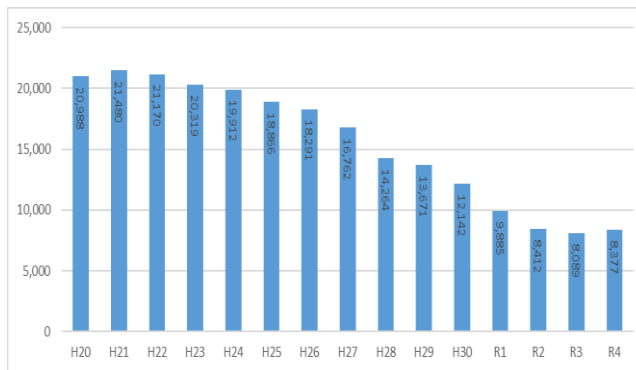


図 3-9 利用者の推移

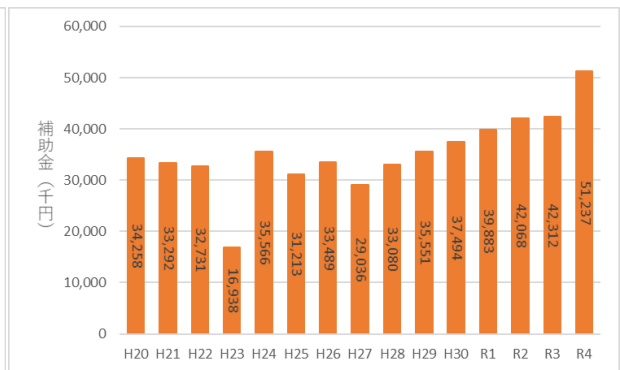


図 3-10 補助金の推移

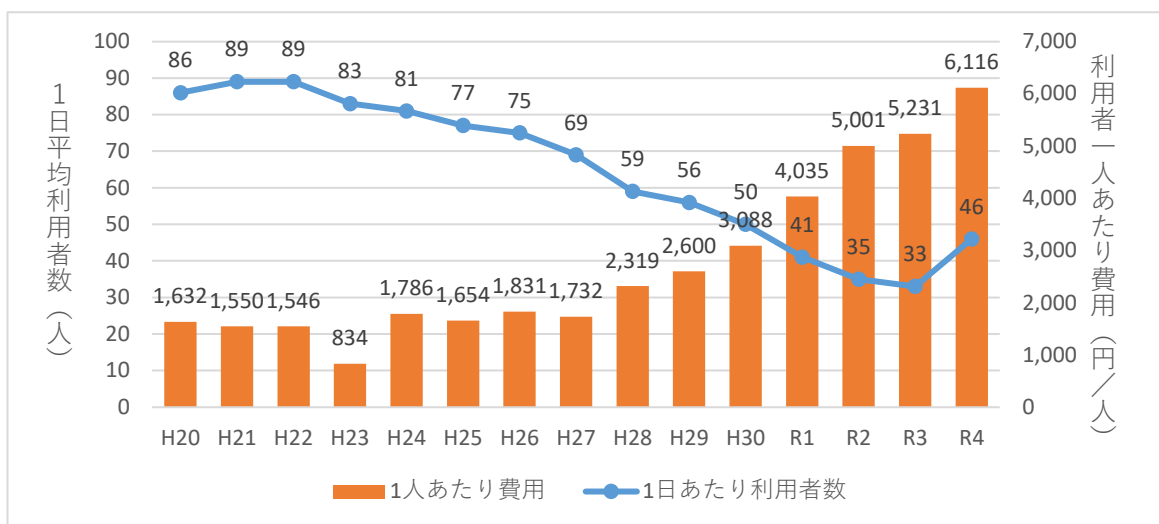


図 3-11 1 人あたり費用と 1 日平均利用者数

(エリア別の利用状況)

デマンド交通あし丸くんのエリア別利用状況は、平成 30 年度と令和 4 年度を比較してみると、丸森（平坦部）・館矢間エリアと筆甫エリアの利用者が増加しているのに対して、金山・小斎エリアは 43%、丸森（山間部）エリアも 52%まで減少しています。

どのエリアも令和 4 年度の 1 日平均利用者数は 4～7 人に留まっています。

車両は 1 エリアに 1 台ずつ配置されているため、利用がない場合は待機となります。エリアごとに出動率をみると、最も出動率が高いのは大張・耕野エリアの 43%、次いで筆甫エリアの 33%となっています。便数の多い金山・小斎エリアや路線バスが運行している大内エリア、丸森（平坦部）・館矢間エリアは出動率が 3 割を下回っており、1 日の 7 割は利用者がなく待機している状況となっています。

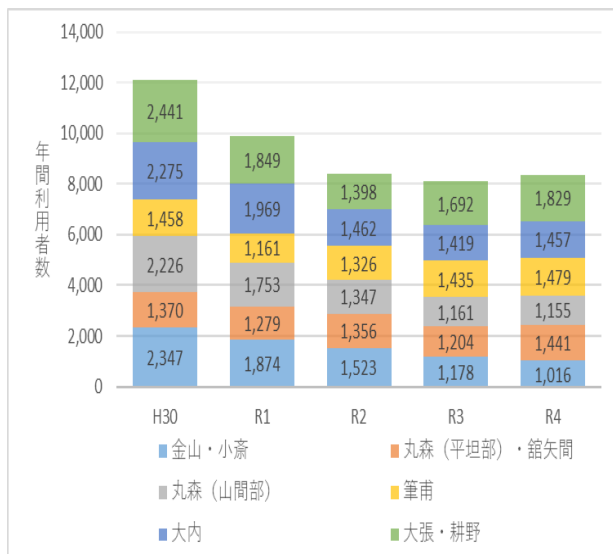


図 3-12 年間利用者数の推移

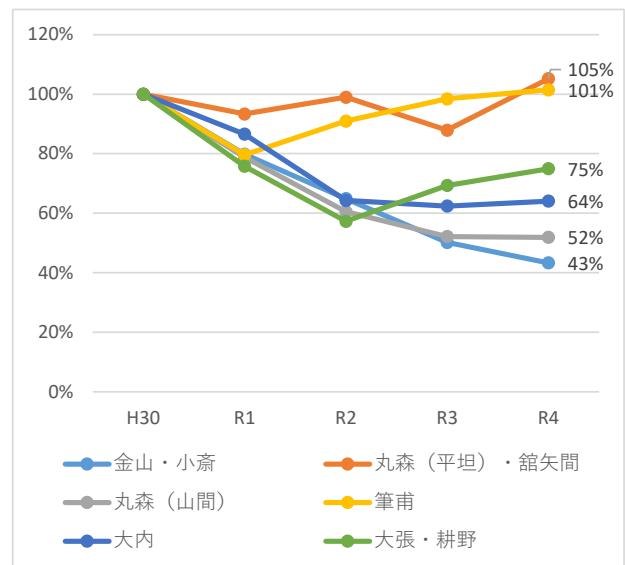


図 3-13 年間利用者数の増減率（対 H30）

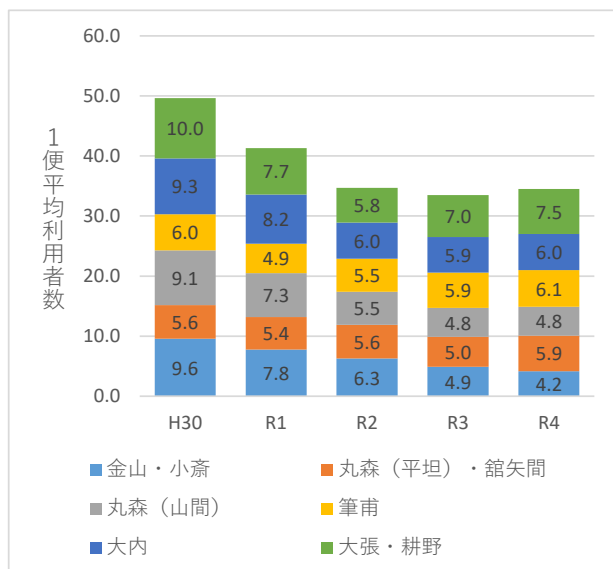


図 3-14 1 日平均利用者数の推移

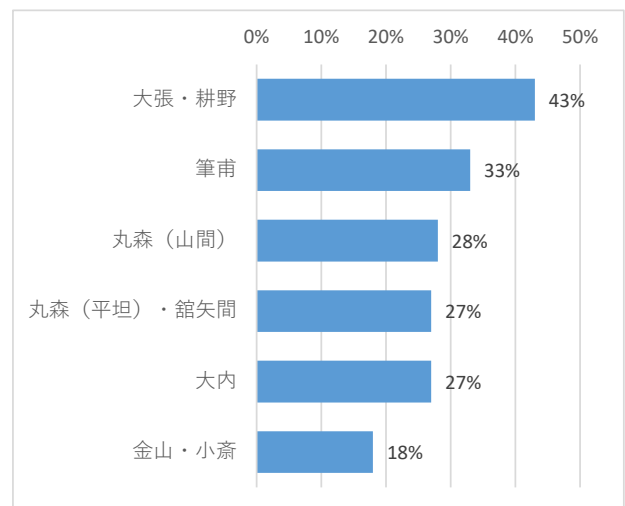


図 3-15 便別出動率

注：令和 5 年 3 月の利用実績より

3-4 筆甫地区自家用有償運送

本町では、令和5年4月から筆甫地区において自家用有償運送（空白地）の運行が開始されています。筆甫地区の自家用有償運送は、既存の町民バスやデマンド交通あし丸くんでは対応できない隣接する相馬市の病院への通院や筆甫地区内の送迎に対応しています。

運営主体は一般社団法人筆甫地区振興連絡協議会で、乗車対象者は筆甫地区内の住民となっており、地区住民のニーズに応える役割を担っています。

表 筆甫地区自家用有償運送の概要

項目	筆甫地区～相馬市内への運行内容	筆甫地区内の運行内容
運 営 主 体	（一社）筆甫地区振興連絡協議会	（一社）筆甫地区振興連絡協議会
対 象 者	筆甫地区住民	筆甫地区住民
運 行 範 囲	筆甫地区内～相馬市内の病院等	筆甫地区内（ドア・ツー・ドア）
使 用 車 両	運営団体所有車 1 台 自家用車 2 台	運営団体所有車 1 台 自家用車 2 台
運 転 手	運営団体職員	運営団体職員
料 金	1 回 1,000 円/片道	1 回 100 円/片道
運 行 日 ・ 時 間	週 1 回 1 往復	月～金曜日 9：00～16：30
予 約 方 法	前日までに、（一社）筆甫地区振興連絡協議会へ電話または直接来所のうえ予約	当日までに（一社）筆甫地区振興連絡協議会へ電話、または直接来所のうえ予約

4. 地域公共交通の課題とあり方の方向性

4-1 上位計画の整理 ～第五次丸森町総合計画～

本計画の上位計画である第五次丸森町総合計画」では、本町が目指す将来像「人と地域が輝き 豊かで元気なまち・まるもり ～ 一人ひとりの“郷土愛”で未来に繋げるまちづくり～」の実現に向けて、8つの基本方針を設けており、公共交通に関しては、基本方針8「住み続けたいと思える快適で魅力的なまちづくり」において、住民の生活を支える交通環境の充実を図るため、阿武隈急行線の利用促進及び町民の身近な交通手段である町民バス、デマンド交通あし丸くんを運行しており、町民の利便性と快適性を確保した、総合的な公共交通環境の充実を目指しています。（図 4-1）

また、重点戦略Ⅲにおいて「丸森町阿武隈急行線利用促進事業」「デマンドタクシー運行事業」「町民バス運行事業」を主要事業に設定し、事業者等と連携しながら、町の総力をあげて生活基盤の整備を推進しています。（図 4-2）

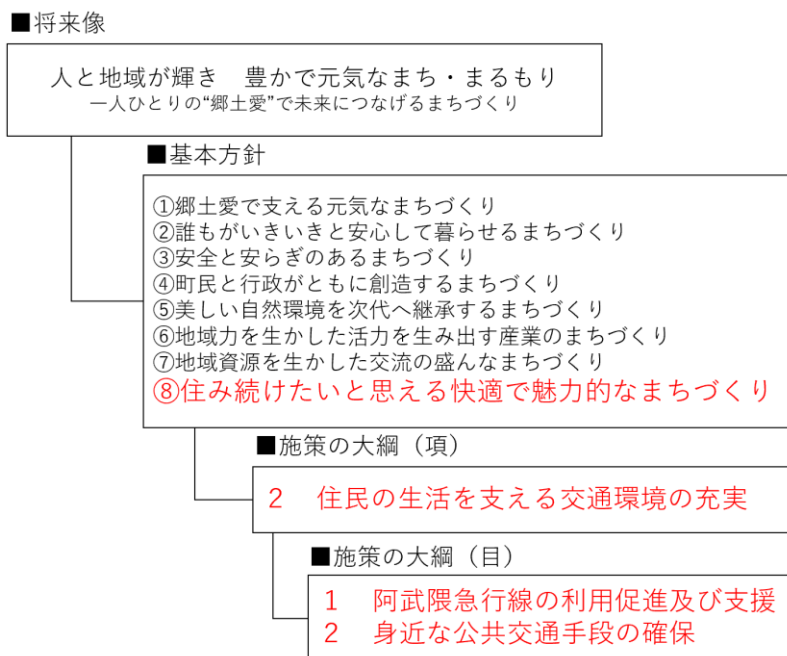


図 4-1 地域公共交通に関する施策の大綱

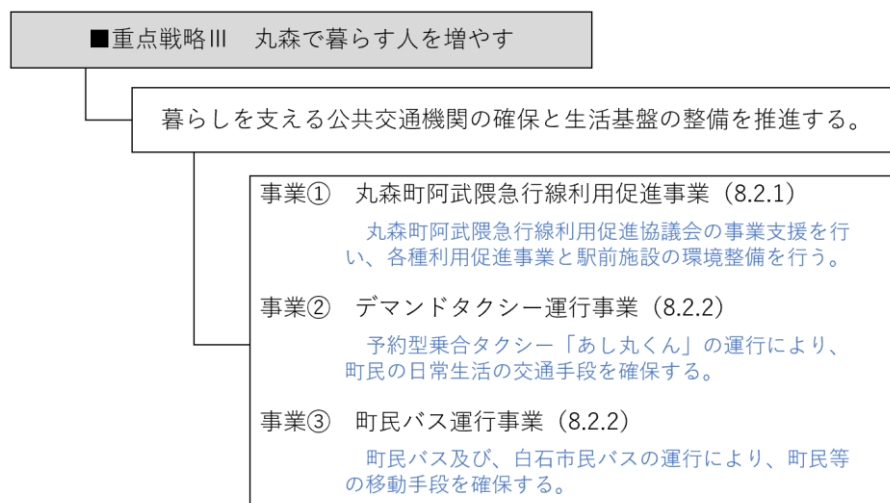


図 4-2 地域公共交通に関する重点戦略

4-2 関連施策の整理 ～観光施策～

本町の、観光施策に関しては、「第五次丸森町総合計画」の基本方針7「地域資源を活かした交流の盛んなまちづくり」に位置づけ、観光振興を図っています。

また、第五次丸森町総合計画と整合を図った上で、さらに具体的な本町の観光振興の基本方針や施策を示す「丸森町観光振興計画」を令和4年度に策定し、観光に関する取り組みを推進するための指針としています。

丸森町観光振興計画では、目指すべき将来像を「個性が輝きを放つ「まるっと まるしゅ まるもり」すべての人が輝き、幸せを実感できるまちを目指して～」とし、多様な資源をつなぎ合わせて、新たな価値を生み出していくことによって丸森町の観光振興を進めていくとしております。

町一体となって観光振興に取り組むためには、受け入れ体制を整備することが求められています。具体的には、齋理屋敷や町内の観光施設等を周遊するための二次交通及び動線の充実であり、観光客の利便性の向上に資する交通環境の整備に取り組むことが重要です。（図 4-3）

目指す将来像

個性が輝きを放つ

「まるっと まるしゅ まるもり」

観光振興に寄与する地域公共交通関連の取り組み

二次交通及び動線の充実	既存の公共交通と各事業者が個別に運用する送迎等、活用できるものを連携させるなどして、地域で持続可能であり、かつ、観光客の利便性の向上に資する交通環境の整備に取り組みます。
	主な事業
	【継続】 レンタサイクルステーション運用
	【継続】 るんるん号等の利便性向上
	【継続】 案内看板の統一化、再整備
	【新規】 モデルルートの作成
	【提案】 「商品輸送」の仕組みの検討

図 4-3 地域公共交通に関する施策

4-3 関連施策の整理 ～福祉施策～

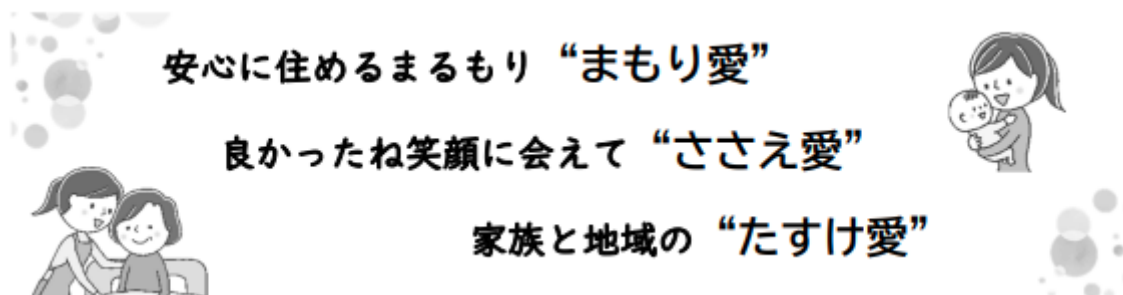
本町の、福祉施策に関しては、「第五次丸森町総合計画」の基本方針2「誰もがいきいきと安心して暮らせるまちづくり」に位置づけ、地域全体で支え合う地域共生社会を目指しています。

また、第五次丸森町総合計画と整合を図った上で、基本方針や施策を示す「第2期丸森町地域福祉計画」を令和4年度に策定し、地域福祉に関する取り組みを推進するための指針としています。

第2期丸森町地域福祉計画では、基本理念を「安心に住めるまるもり“まもり愛” 良かったね笑顔に会えて“ささえ愛” 家族と地域の“たすけ愛”」とし、地域における生活課題を広く含む幅広い取り組み、ひいては全般的なまちづくりの推進を進めるものとしております。

町一体となって地域福祉の課題に対応するためには、公共交通の整備を行い移動が困難な高齢者や障がい者の移動手段の確保が求められています。（図4-4）

基本理念



施策1-1 暮らしやすい環境・移動支援等の整備

〔実施方針〕

- 外出をはじめ、誰もが地域で安心して暮らせる福祉環境をソフト・ハードの両面から推進します。

1-1-2：公共交通、移動手段の確保

移動が困難な高齢者や障害のある人等の移動手段の確保については、町の総合交通計画の策定を進める中で検討し、デマンド型タクシー（あし丸くん）や町民バスの在り方の見直しを行います。

また、地域主体による地域内の移動手段の確保に向けた検討を進めます。

図4-4 地域公共交通に関する施策

4-4 住民アンケート調査結果

(1) 調査の目的

本計画の策定にあたり、日常生活における移動状況や住民が期待する地域公共交通の役割などを把握し、本町における地域公共交通の在り方の検討に向けた基礎資料とすることを目的に、令和5年9月に町内在住の15歳から89歳までを対象に住民アンケートを実施しました。

- 調査対象…丸森町に住民登録がある15歳から89歳の町民(無作為抽出により1,000人抽出)
- 調査方法…郵送配布～郵送回収
- 調査期間…令和5年9月1日(金) ～ 回収:令和5年9月12日(火)
- 回答票数…473票(回収率47%)

表 4-1 年代別の回収率と補正係数^{*注2}

年齢	人数			構成比		回収率	補正係数
	回答数	配布数	人口	回答数	人口		
15-19歳	35	94	439	7%	4%	 37%	0.5
20代	41	156	749	9%	7%	 26%	0.8
30代	11	53	972	2%	9%	 21%	3.8
40代	20	74	1,354	4%	12%	 27%	2.9
50代	31	69	1,336	7%	12%	 45%	1.8
60-64歳	34	54	892	7%	8%	 63%	1.1
65-69歳	69	120	1,135	15%	10%	 58%	0.7
70代	136	235	2,203	29%	20%	 58%	0.7
80歳以上	96	145	1,988	20%	18%	 66%	0.9
合計	473	1,000	11,068	100%	100%	 47%	1.0

注1：構成比（％）は、回収票数および人口それぞれの合計に占める各年代の割合。四捨五入を行っていることにより合計は100%にならない場合がある（以下同）。

注2：アンケートの回答者の年代別構成比および地区別構成比は実際の構成比と異なるため、調査結果を実際の人口に合わせて回答を補正する補正係数を以下に設定する。補正係数は「回答数の構成比÷人口の構成比」により求める。補正済みデータについては「*」を付す。

(2) 自動車の免許保有状況

運転をしている人の割合（運転率）は全体で82%ですが、男性が88%に対して、女性は75%とやや低くなっています。（図4-4）

年代別にみると、男性は80歳以上でも83%と高いのに対して、女性の80歳以上は47%に留まります。しかし、女性の70歳は過半数を超えて66%と高くなっており、今後は80歳以上でも現在より高くなることが予想されます。（図4-5）

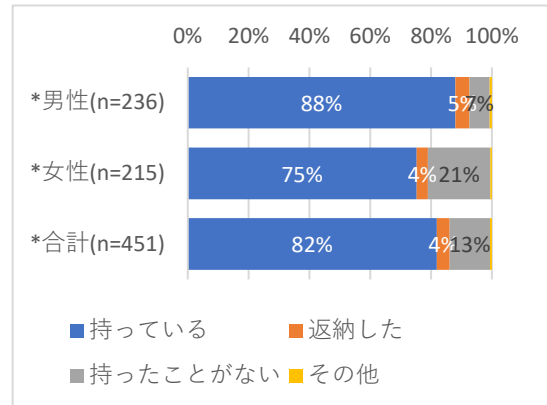


図4-4 自動車運転免許の保有率

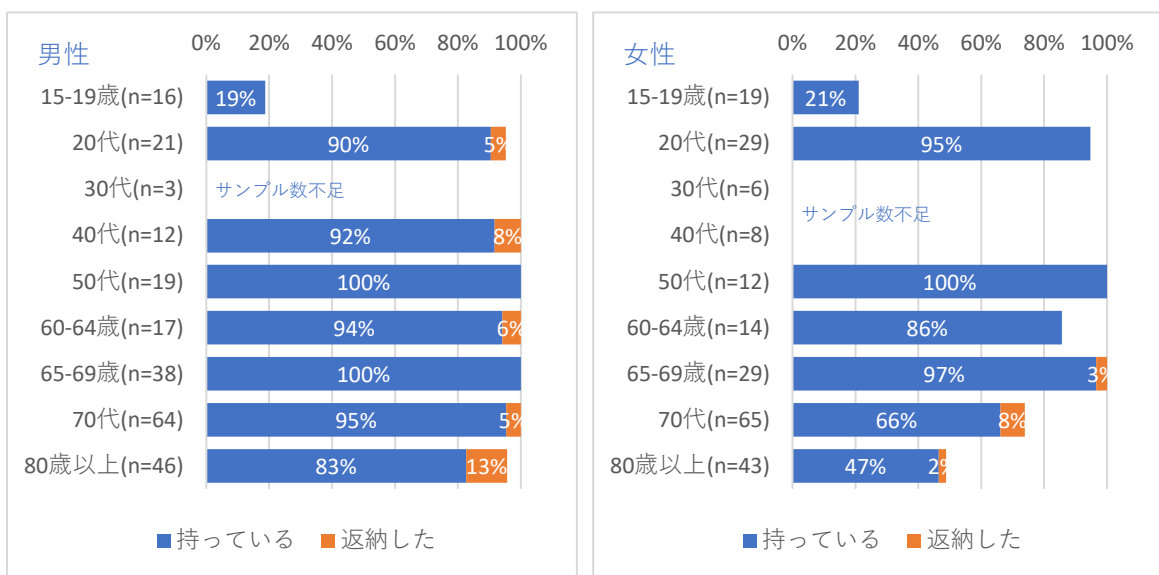


図4-5 自動車運転免許の保有率と返納率

(3) スマートフォンの保有状況

スマートフォン（携帯電話）の保有状況については、全体で87%が保有しています。

年代別にみると、60代までは9割を超えおり、70代は80%、80歳以上も61%が保有しています。（図4-6）

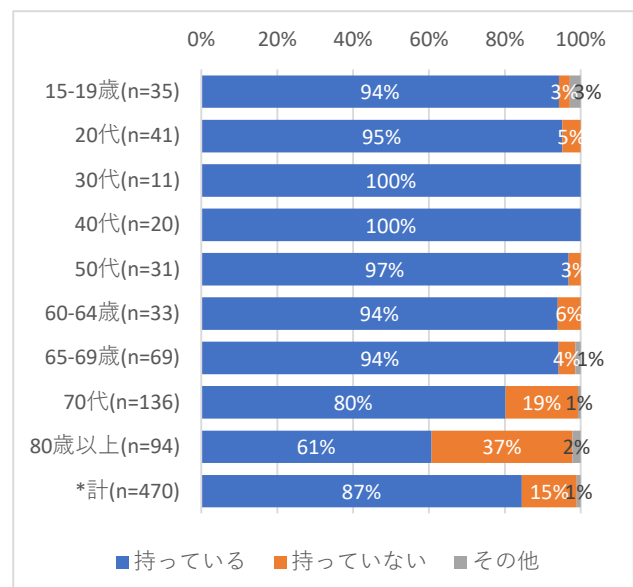


図4-6 スマートフォンの保有状況

(4) 通勤や通学、通院、買い物先

通勤先は、丸森町内が 40%を占めて最も多く、次いで角田市内が 17%、仙台市内が 11%です。(図 4-7)

通学先は、仙台市内が 34%を占めて最も多く、次いで丸森町内、角田市内が 21%、白石市内が 11%です。その他は名取市が 3 人、福島市と柴田町が各 1 人です。(図 4-8)

通院先としては、丸森町内が 51%と多く、次いで角田市内(18%)、白石市内(16%)となっています。「その他」の市町村に通院している割合は 25%と多く、大河原町(40 人)、名取市(21 人)、岩沼市(10 人)の他、宮城県内や福島県内の多数の市町村に通院しています。(図 4-9)

買い物先は丸森町内が 75%、角田市内が 63%を占めています。(図 4-10)

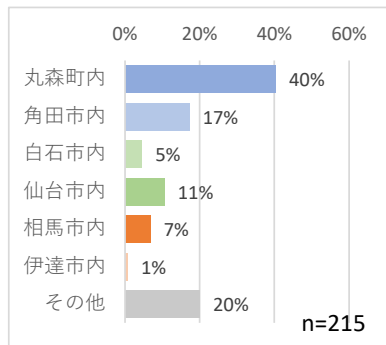


図 4-7 通勤先

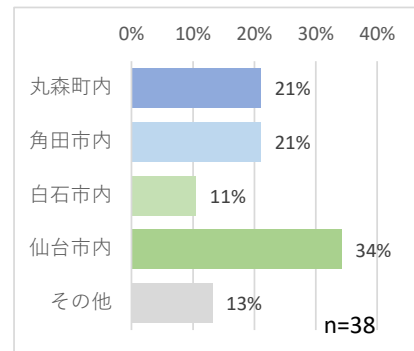


図 4-8 通学先

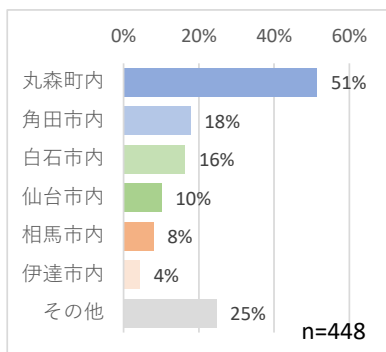


図 4-9 通院先 (複数回答)

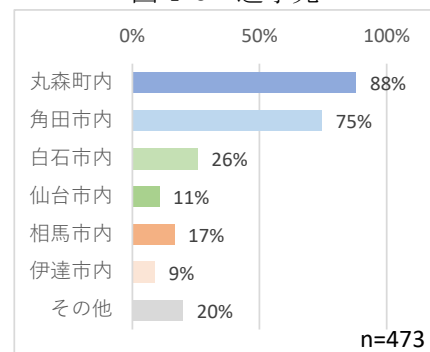


図 4-10 買い物先

(5) 目的別の移動方法

通学では地域公共交通が比較的多く利用されており、「阿武隈急行線」は 32%、「町民バス」が 8%を占めています。通院や買い物は公共交通の中では「デマンド交通あし丸くん」が比較的多く利用されています。

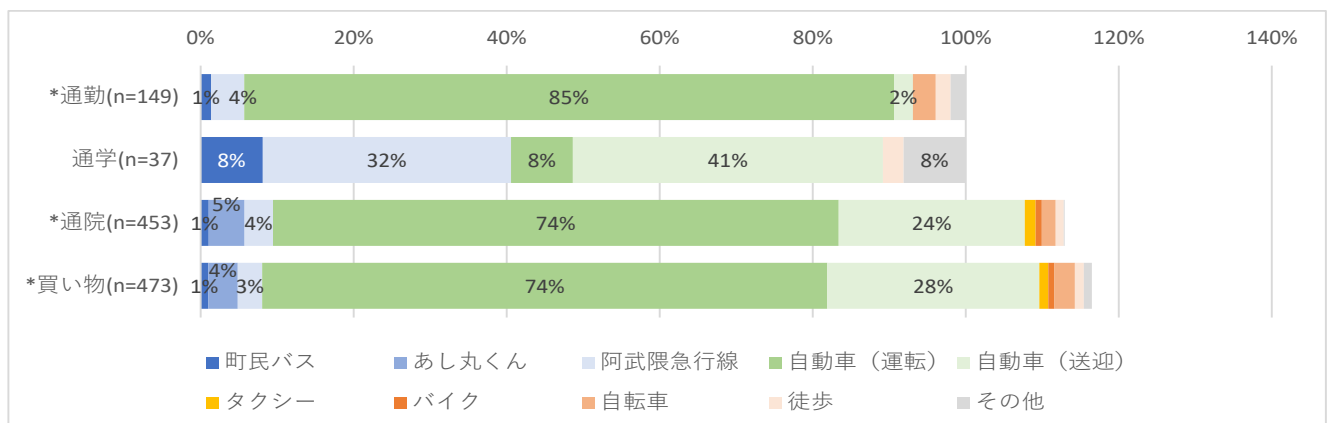


図 4-11 外出目的別の外出方法

（６） 地域公共交通の利用度

地域公共交通の中では阿武隈急行線が最も利用度が高いですが、「利用しない」と回答された人は約半数となっており、将来利用したいと回答した方も約 20%と中長期的な利用度は高くないことがわかります。

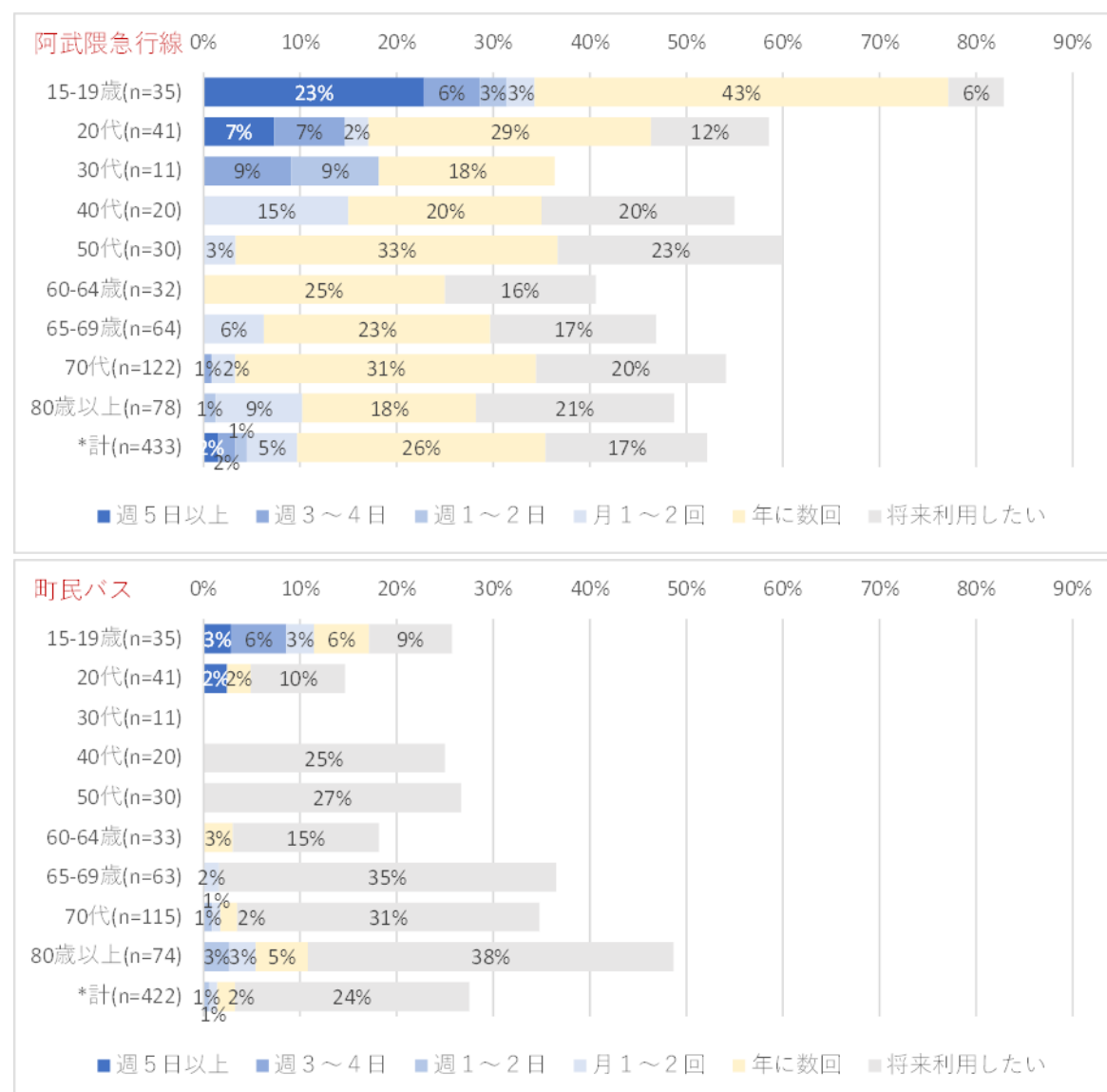
町民バスをはじめ、デマンド交通あし丸くんやタクシーについては、「利用しない」割合が 60%～70%割を占めて多くなっています。

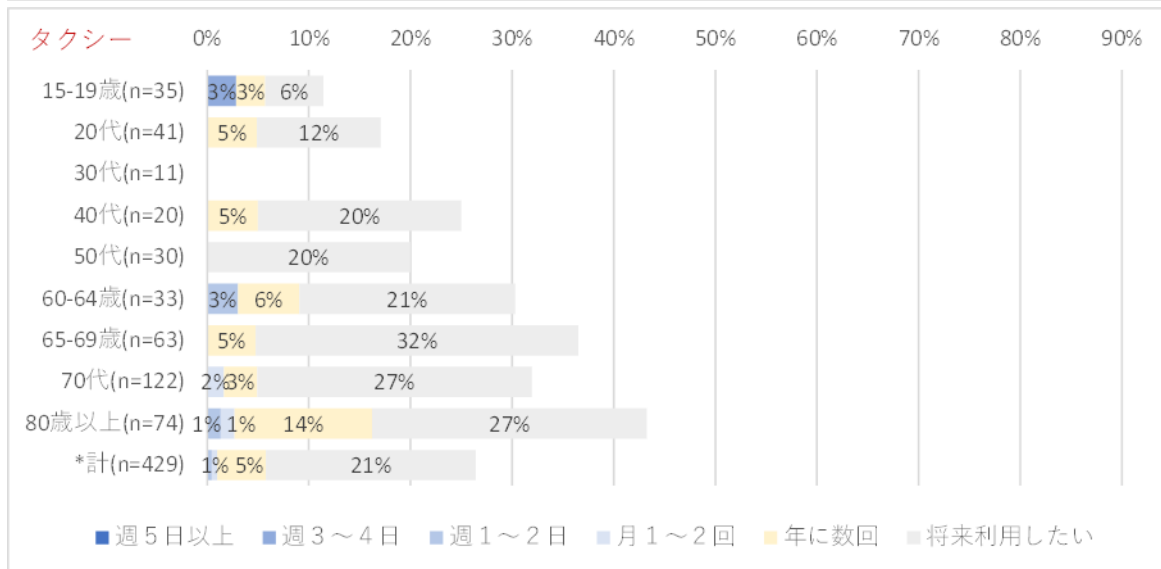
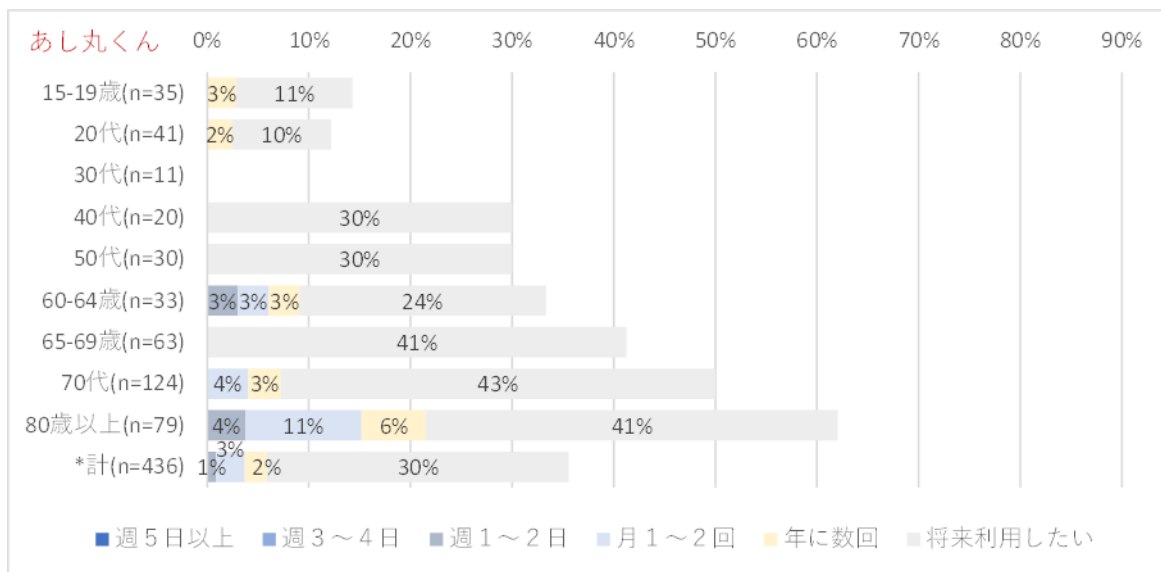
阿武隈急行線と町民バスは 10 代や 20 代の利用が多いのに対して、あし丸くんは 60 代以上の利用が比較的多いことがわかります。タクシーは 10 代の利用もみられます。

表 4-2 地域公共交通の利用頻度

種類	週 5 日以上	週 3～4 日	週 1～2 日	月 1～2 回	年に数回	将来利用したい	利用しない	その他
阿武隈急行線	1.5%	1.8%	1.2%	5.2%	25.7%	16.7%	47.7%	0.2%
町民バス	0.3%	0.2%	0.6%	0.9%	1.8%	24.2%	71.9%	0.0%
あし丸くん	0.0%	0.2%	0.9%	2.8%	2.2%	29.7%	63.9%	0.3%
タクシー	0.0%	0.3%	0.5%	0.5%	4.8%	20.6%	72.4%	0.9%

図 4-12 年齢別の地域公共交通の利用頻度





（７） 阿武隈急行線に期待する改善策

阿武隈急行線に期待する改善策としては、「町民バスやデマンド交通あし丸くんととの接続の改善」が最も多く、回答者の約半数が挙げられました。次いで、運賃に係る対策が挙げられました。

年代別にみると、10代は「運賃の値下げ」が特に多く、20～40代は観光利用の促進や魅力的なイベント開催による利用者増加を期待する意見が多く挙げられました。60代以上は鉄道とバスの接続改善が多く挙げられました。

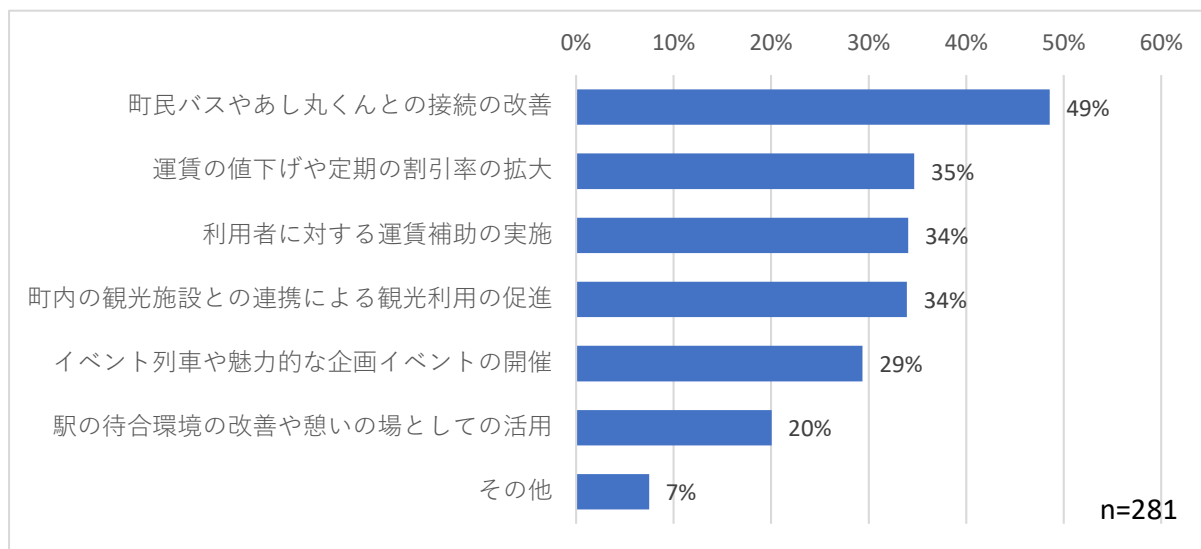


図 4-13 阿武隈急行線に期待する改善策

(8) 外出やおでかけを不便と感じるか

外出やおでかけを不便に感じているかどうかについては「とても不便（19%）」と「少し不便（24%）」を合わせると不便と感じている割合は 43%であり、不便と感じない割合が 48%とやや上回っています。年代別にみると、若い世代ほど外出やおでかけに不便を感じています。特に 10 代は 8 割が不便と感じています。

10 年後を想像すると、逆に年齢が高くなるほど不便を感じており、60 代後半と 70 代が最も高く、8 割を超える人が不便を感じると答えています。

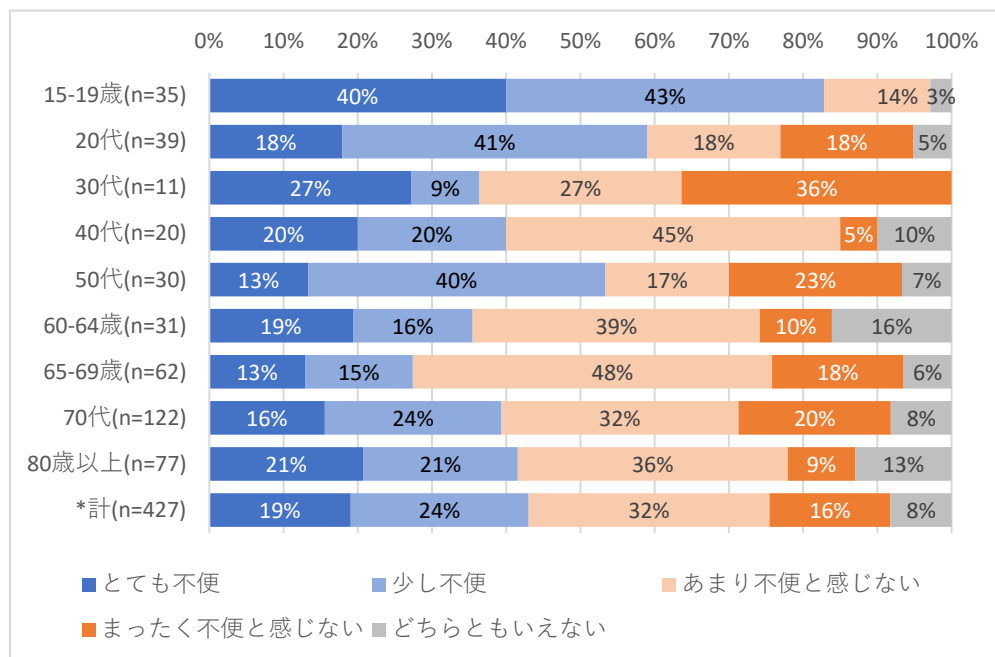


図 4-14 外出やおでかけを不便だと感じるか

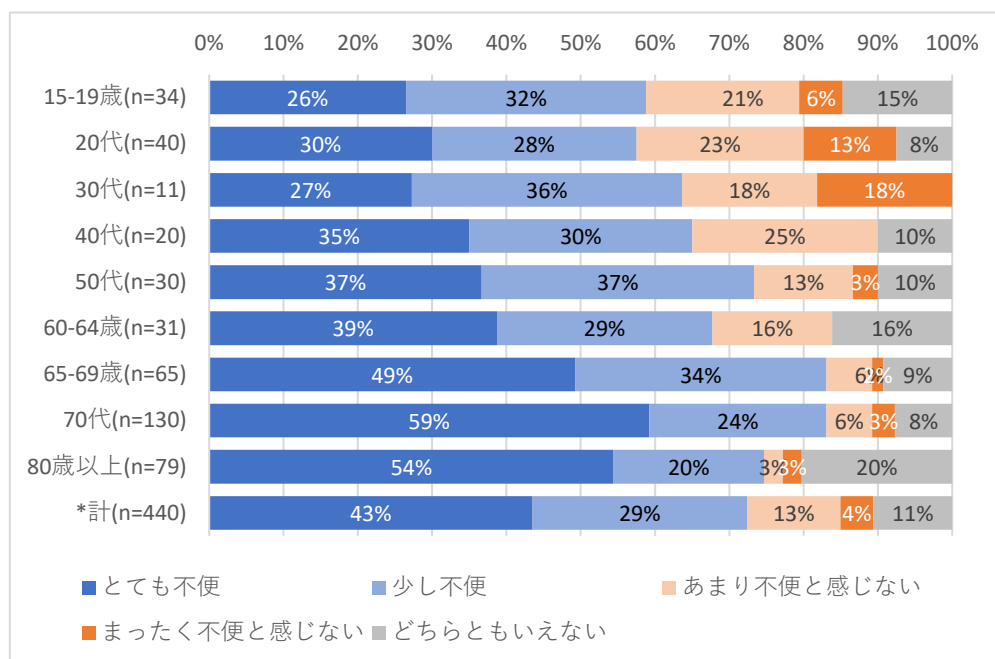


図 4-15 10 年後、外出やおでかけを不便だと感じるか

（９） 地域公共交通に期待する改善策

地域公共交通に対して優先して欲しい改善策としては、「阿武隈急行の運行の維持」と「デマンド交通あし丸くんの維持や改善」が多く、それぞれ 48%、47%と多くあげられました。次いで「通学や、通勤ができる交通環境づくり」と、「町民バスを角田市内まで直通させる」が多く、それぞれ約 30% を占めています。

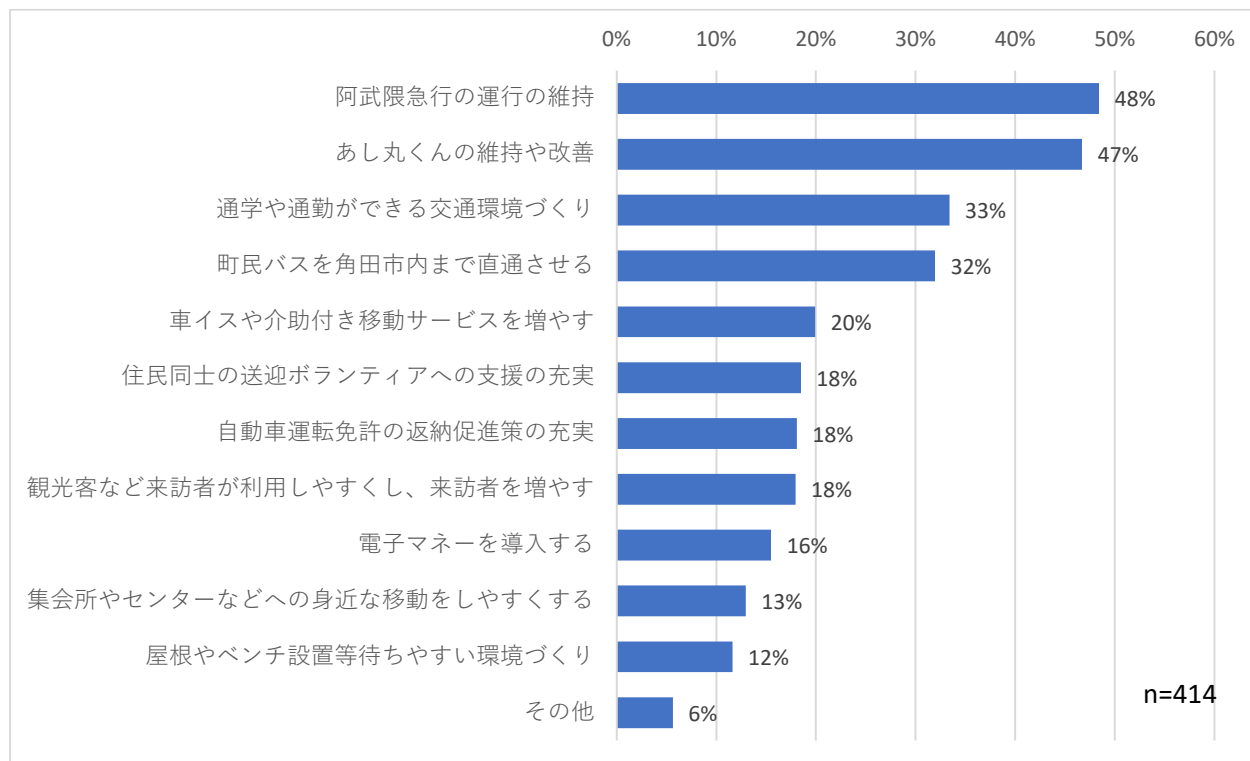


図 4-16 改善希望（補正済み）

（１０） 自由回答（公共交通に対する意見）

公共交通に関する自由意見をキーワードから分類集計すると、最も多かったのは、大河原町や白石市方面、福島県方面も含めて「町外に行きやすくしてほしい」という意見でした。

次いで、デマンド交通あし丸くんと阿武隈急行の維持や利便性向上に対する意見が多く寄せられました。

表 自由意見のキーワード分類集計

分類	回答数
町外に行きやすくしてほしい	12
あし丸くんの継続や改善が重要	11
阿武隈急行の維持が重要	10
公共交通は必要	6
通学支援を充実して欲しい	5
公共交通は不便	4
町民バスなどの見直しが必要	4
高齢者が利用しやすい交通が必要	4
助け合いの仕組みが必要	3
その他	10
合計	69

4-4 地域公共交通の課題の整理

地域公共交通の現状や住民のニーズ、社会経済情勢等の変化、町の将来像、上位計画・関連計画におけるまちづくりの方向性等を踏まえて、丸森町の地域公共交通の課題を整理しました。

課題 1：地域公共交通の利便性向上と維持・確保

- ・ 本町の地域公共交通は町内の移動のみならず、近隣市町や福島県、仙台市にも至り、通勤・通学には欠かせない移動手段です。しかしながら、人口減少も伴い、利用者数は年々減少しており、公共交通の運行そのものの存続が危機的状況であることから、**利用実態やニーズに応じた運行見直しが必要不可欠です。**
- ・ 高齢者による交通事故等が全国的に増加している中、本町では高齢者の自家用車による移動の占める割合が 76%と高い傾向にあり、地域公共交通の利用が少ない要因の一つです。免許返納者や運転できない未成年者等の**より便利で利用しやすい移動手段の確保が求められています。**
- ・ 町内の交通事業者は 1 社のみで、ドライバーの高齢化や将来的な担い手の確保が課題となっており、**持続可能な地域公共交通の確立に向けた対策が必要となっています。**

課題 2：阿武隈急行線の利用者の増加と運行の継続

- ・ 「阿武隈急行沿線開発推進協議会」「丸森町阿武隈急行線利用促進協議会」等、定期券助成等の利用促進事業やあぶ Q ウォーク等のイベントの開催を実施していますが、**利用者の減少が抑えられず施設老朽化等の修繕費用も膨大で、阿武隈急行株式会社の赤字経営が続いていることから福島県と宮城県の両県及び沿線市町で今後の阿武隈急行線の方針について議論する必要があります。**
- ・ 住民の広域的な移動手段の確保は、本町のまちづくりにも直結するため、運行の補助を行うとともに阿武隈急行や沿線自治体と赤字拡大を抑制するための**抜本的な経営改善に向けた見直しを行う必要があります。**

課題 3：観光客等の多様な移動ニーズへの対応

- ・ 人口減少が加速する中、観光客を誘致し、観光産業を発展させることは地域の経済力の維持、発展のために不可欠です。町の主要な観光施設である阿武隈ライン舟下りや齋理屋敷への誘客強化を図るため、**観光二次交通の十分な整備が必要です。**
- ・ るんるん号は、土日祝日に町内の観光施設を経由する路線ですが、冬季（12 月から 3 月の間）は運休しており、観光二次交通としての運行通年化を検討する必要があります。また、デマンド交通あし丸くんも観光二次交通としてのニーズも高まっており、町外の方も利用できるなどの運行形態の**抜本的な見直しが急務となっています。**

課題 4：住民への周知強化や D X 推進による利用促進

- ・ 地域公共交通の利用者数は減少傾向にあることから、地域公共交通のサービス充実を図ると同時に、地域公共交通の利用方法がわからない人への**的確かつ広域的な周知に努めていく必要があります。**
- ・ 社会情勢が目まぐるしく変化する中で地域公共交通の現状と課題の理解を深めることが求められるため、**課題分析や AI 技術の導入などを推進し、更なる利用促進に取り組む必要があります。**

5. 基本方針と戦略・事業

5-1 丸森町が目指す地域公共交通の将来像

本町の地域公共交通における課題、及び上位計画等での公共交通サービスの位置付けを踏まえながら、本町が目指す地域公共交通の将来像を設定しました。

【丸森町が目指す地域公共交通の将来像】

町民の豊かな暮らしを支える地域公共交通

5-2 基本方針

本町が目指す地域公共交通の将来像を実現するため、本計画の「基本方針」を下表のとおり設定しました。

基本方針 1	運行の効率化と連携強化による持続可能な地域公共交通の実現 ・町民バスやデマンド交通あし丸くんと阿武隈急行線の連携を強化し、町民の広域的な移動と、観光二次交通の確保を目指します。 ・少子高齢化に伴い過疎化が進む本町において町民一人ひとりの移動の確保は、今後ますます重要であるため、町民バスやデマンド交通あし丸くんの利便性、効率性を高め町民の暮らしを支える交通体系を目指します。 ・阿武隈急行線の利用促進や維持のための補助、沿線自治体との連携を行いながら持続可能な運行形態を目指します。
基本方針 2	身近で利用したくなる地域公共交通の実現 ・利用しやすくわかりやすい地域公共交通の環境づくりと周知強化の取組みを推進し、更なる利用促進を目指します。 ・多様な移動ニーズに応えるため、課題分析やA I 技術の導入などの地域公共交通D Xを推進し、効率的な運行を目指します。

5-3 地域公共交通の将来像

本町の「町民の豊かな暮らしを支える地域公共交通」を将来像とし、その実現のための地域公共交通網を図のとおり設定します。

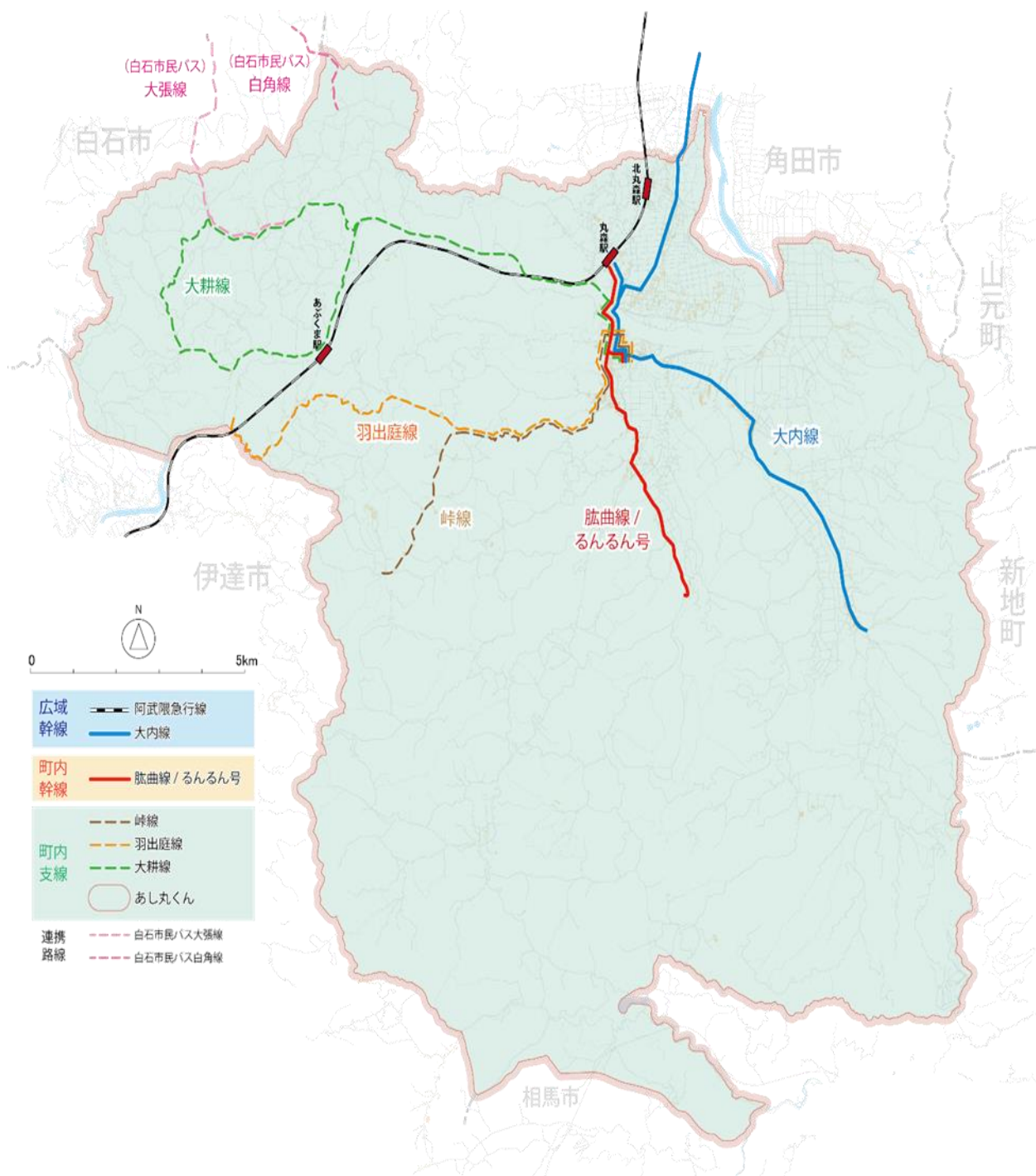


図 5-1 地域公共交通網のイメージ

5-4 地域公共交通の分類と位置づけ

本町が目指す地域公共交通の将来像と基本方針達成のため、本町の地域公共交通の役割と位置づけを設定します。

機能の分類		路線名	役割と位置づけ
広域幹線	鉄道	阿武隈急行線	槻木～丸森～梁川～福島を結ぶ広域移動に対応し、住民の生活を支える社会基盤として、通勤・通学・通院・買い物或利用や観光客の利用など、本町にとって大変重要な移動手段としての役割を担います。
	町民バス（フィーダー）	大内線	大内地区と町中心部から角田市を結ぶ広域的な移動に対応する役割を担います。
町内幹線	町民バス（フィーダー）	肱曲線	丸森駅と町中心部からキャンプ場入口への移動に対応する交通手段として役割を担います。
		るんるん号	丸森駅と町中心部やキャンプ場入口を結び、来訪者の観光二次交通に対応する役割を担います。
町内支線	町民バス（フィーダー）	峠線	峠地区と町中心部を結ぶ交通手段としての役割を担います。
		羽出庭線	羽出庭地区と町中心部を結ぶ交通手段としての役割を担います。
		大耕線	大張地区や耕野地区と町中心部を結ぶ交通手段としての役割を担います。また、白石市民バスと接続しており、白石市への移動に対する確保も担います。
	デマンド型交通（フィーダー）	あし丸くん	町内全域をカバーし、町民バスでは対応できない方の移動に対する役割を担います。また、来訪者の観光二次交通としての機能も担います。
連携路線	白石市民バス	大張線	白石市から大張地区や耕野地区を結ぶ交通手段としての役割を担います。
		白角線	白石市から大張地区を結ぶ交通手段としての役割を担います。

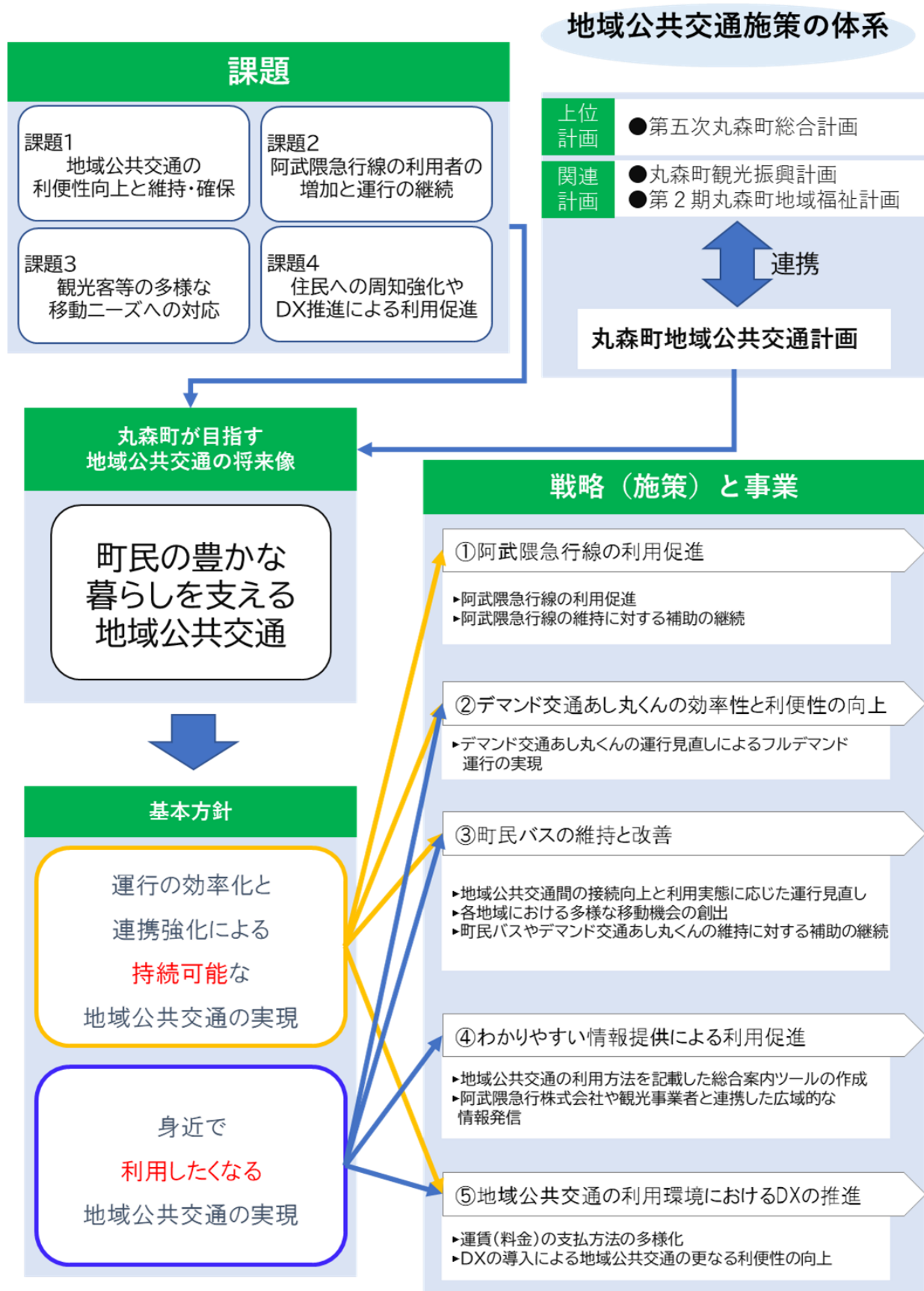
5-5 目標・数値指標の設定

本計画の基本方針の達成度を把握するため、目標とする「指標」を設定しました。

目標／関連する基本方針		指標				
1	地域公共交通の利用者数 基本方針 1 基本方針 2	(単位 人／年)				
			現状値	目標値 (R11)		
		町民バス	11,075	11,100		
		デマンド交通あし丸くん	8,377	9,000		
		阿武隈急行線	136,222	150,000		
		・現状の数値は、令和4年度の実績値 ・「阿武隈急行線」については、あぶくま駅、丸森駅、北丸森駅の利用者数合計				
2	65 歳以上の運転免許証の 自主返納件数 基本方針 1 基本方針 2	(単位 件)				
			現状値	目標値 (R11)		
		65 歳以上の運転免許証の 自主返納件数	46	50		
		・現状の数値は、令和4年度の実績値				
		3	月の年代別おでかけ(外出)頻度 基本方針 1 基本方針 2	(単位 回／月)		
					現状値	目標値 (R11)
15 歳～64 歳	30.5			30		
65 歳～70 歳代	28.3			28		
80 歳代以上	9.4			10		
・現状の数値は、令和5年9月に実施した町民アンケートの結果より抜粋						
4	地域公共交通の年間収支率 基本方針 1	(単位 %)				
			現状値	目標値 (R11)		
		町民バス	10	11		
		デマンド交通あし丸くん	6	7		
		[計算方法] 運賃収入÷運行経費 ・令和4年度の実績値により算出				
		5	利用者一人あたり公的資金 投入額 基本方針 1 ※公的資金投入額＝町財源のほか、 国・県補助等も含む	(単位 一人あたり／円)		
	現状値			目標値 (R11)		
町民バス	1,886			1,800		
デマンド交通あし丸くん	6,127			5,000		
[計算方法] (運行経費－運賃収入)÷利用者数 ・金額等は、令和4年度の実績値						

6. 本計画の目標を達成するための施策

6-1 地域公共交通施策の体系



6-2 施策の体系

本計画の目標を達成するため、5つの施策を設定しました。

施策1 阿武隈急行線の利用促進

- ・事業1-1 阿武隈急行線の利用促進
- ・事業1-2 阿武隈急行線の維持に対する補助の継続

施策2 デマンド交通あし丸くんの効率性と利便性の向上

- ・事業2-1 デマンド交通あし丸くんの運行見直しによるA I オンデマンド運行の実現

施策3 町民バスの維持と改善

- ・事業3-1 地域公共交通間の接続向上と利用実態に応じた運行見直し
- ・事業3-2 各地域における多様な移動機会の創出
- ・事業3-3 町民バスやデマンド交通あし丸くんの維持に対する補助の継続

施策4 わかりやすい情報提供による利用促進

- ・事業4-1 地域公共交通の利用方法を記載した総合案内ツールの作成
- ・事業4-2 阿武隈急行株式会社や観光事業者と連携した広域的な情報発信

施策5 地域公共交通の利用環境におけるDXの推進

- ・事業5-1 運賃（料金）の支払方法の多様化
- ・事業5-2 DXの導入による地域公共交通の更なる利便性の向上

6-3 施策別の事業内容・実施主体・スケジュールの詳細

施策別に、事業内容・実施主体・スケジュールをまとめました。

施策 1 阿武隈急行線の利用促進

事業名	[1-1] 阿武隈急行線の利用促進					
目的	阿武隈急行線の利用促進のため、イベント列車の開催や待合環境等の整備、情報発信を行うことで利用者の増加を目指します。					
内容	○町民バスやデマンド交通あし丸くんと接続を改善し、利用しやすい環境を整備します。 ○トイレや駐車場の整備・修繕を行い、駅舎の待合環境の向上を図ります。 ○駅構内花壇等への花苗植栽、除草、清掃及び花壇の整備等を実施し、駅及びその周辺の環境整備を推進します。 ○阿武隈急行線沿線の魅力やお得情報等を発信する SNS 等の周知強化します。 ○既存のイベント（あぶQウォーク、ビアガー電など）を継続するとともに、新たなイベントの企画を検討します。 ○通学定期券購入費補助の事業を継続し、更なる利用促進を図ります。					
実施主体	丸森町阿武隈急行線利用促進協議会／阿武隈急行線沿線開発推進協議会／丸森町／阿武隈急行株式会社／交通事業者／地域住民					
実施期間	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
	整備・修繕、イベントの継続・実施、必要に応じた評価・見直し					

事業名	[1-2] 阿武隈急行線の維持に対する補助の継続					
目的	第三セクターである阿武隈急行線の運行を維持させるため、沿線自治体と連携を図りながら補助を行い広域的な地域公共交通の確保を目的とします。					
内容	○第三セクターとして、沿線自治体や阿武隈急行株式会社と連携し、運行に必要な補助を行います。 ○利用者が安心・安全に阿武隈急行線に乗り続けられるため、施設全体の老朽化に伴う修繕を適切に補助します。 ○丸森町から丸森町阿武隈急行線利用促進協議会への補助を継続し、各種利用促進事業を行います。					
実施主体	丸森町阿武隈急行線利用促進協議会／阿武隈急行線再生支援協議会／丸森町／阿武隈急行株式会社					
実施期間	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
	補助の継続、必要に応じた検討・見直し					

施策 2 デマンド交通あし丸くんの効率性と利便性の向上

事業名	[2-1] デマンド交通あし丸くんの運行見直しによるA I オンデマンド運行の実現						
目的	利用者数が減少している一方、運行経費は増加の一途をたどっており、抜本的な見直しを行い、持続可能な運行形態を構築するものです。						
内容	○配車予約システムにAIを導入し、インターネットでの予約受付や運行状況の確認などの利便性の向上に努めます。また、現在の乗降場所である「まちなか拠点」の見直しを行います。 ○交通事業者や関係者との連携を強化し、利便性の向上について協議・調整を図り利用者増加を目指します。 ○運行経費や運行経路を見直し、効率性の向上に努めます。 ○配車システムや運行形態の見直しを検討するため、令和5年度に実証実験を実施します。						
実施主体	丸森町地域公共交通会議／丸森町（企画財政課）／丸森町商工会／交通事業者／地域住民						
実施期間	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
	実証実験	本格運行、評価、必要に応じた検討・見直し					

施策 3 町民バスの維持と改善

事業名	[3-1] 地域公共交通間の接続向上と利用実態に応じた運行見直し					
目的	地域公共交通間の接続や利用者のニーズに合わせた体制整備を構築します。					
内容	○アンケート調査から「大内線や肱曲線と阿武隈急行線の乗り継ぎのしやすさ」を求める声が多く挙げられており、乗継利便性を考慮したダイヤ編成に努めます。 ○るんるん号は、冬季（12月から3月）期間中は運休しており、観光二次交通としての運行通年化を検討する必要があります。 ○デマンド交通あし丸くんも観光二次交通としてのニーズも高まっており、町外の方も利用できるなどの運行形態の抜本的な見直しを行う必要があります。					
実施主体	丸森町地域公共交通会議／丸森町／丸森町商工会／交通事業者／地域住民					
実施期間	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
	乗継利便性を考慮したダイヤ編成					
	必要に応じた検討と見直し					

事業名	[3-2] 各地域における多様な移動機会の創出					
目的	住民主体交通を推進し、地域の交通課題解決とコミュニティ活性化を図ります。					
内容	○各地域の助け合い活動として移動・外出支援が必要かどうかを調査します。 ○各地域で必要な活動（事業）内容を検討します。 ○関係機関と調整を図りながら実施体制を整えます。 ○交通事業者の人材不足が進む中で、住民主体によるライドシェアなど多様な移動機会の可能性を調査・検討します。					
実施主体	住民自治組織、丸森町					
実施期間	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
	検討・協議・随時実施					

事業名	[3-3] 町民バスやデマンド交通あし丸くんの維持に対する補助の継続					
目的	町民バスの運行委託やデマンド交通あし丸くんの運行経費補助などを継続し、安定的な住民サービスを提供します。					
内容	○町内を運行する、町民バスなどの運行委託や補助の継続やドライバーの担い手確保を推奨し、持続可能な地域公共交通を目指します。 ○リソース（経費・車両数）の制約下で最適な路線・ダイヤ編成が実現できているかどうか、利用状況を踏まえて継続的に検討・改善していきます。 ○町民バスやデマンド交通あし丸くんの運行の維持については、生活に不可欠な路線として国庫補助「地域内フィーダー系統補助事業」を活用します。なお、補助対象路線等については、P32のとおりです。					
実施主体	丸森町地域公共交通会議／丸森町（企画財政課）／丸森町商工会／交通事業者					
実施期間	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
	補助の継続、評価、必要に応じた検討・見直し					

施策 4 わかりやすい情報提供による利用促進

事業名	[4-1] 地域公共交通の利用方法を記載した総合案内ツールの作成					
目的	誰にでも分かりやすい地域公共交通を構築するため、総合案内ツールとなるガイドブックを作成し情報提供を行います。					
内容	○町民バスをはじめ、デマンド交通あし丸くん、阿武隈急行線、タクシー、その他の移動手段に関する利用方法を記載した総合案内ツールとして、地域公共交通ガイドブックを作成します。また、紙媒体のほか、インターネット上で閲覧可能な仕組みを検討します。 ○バス停に掲示している時刻表をPDF化して、町ホームページに公開します。 ○町広報誌やホームページなどを活用し、町内だけでなく広域的な情報発信に努めます。 ○公共交通機関の利用方法や地域公共交通に関する支援制度等について、周知を強化し、公共交通の普及啓発に努めます。 ○バス停や駅舎の案内板の更新・修繕・改善を図り利用者の不安を解消します。					
実施主体	丸森町地域公共交通会議／丸森町（企画財政課、商工観光課）／丸森町 商工会／交通事業者／阿武隈急行株式会社					
実施期間	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
	検討・準備、作成		評価、必要に応じた検討・見直し			

事業名	[4-2] 阿武隈急行株式会社や観光事業者と連携した広域的な情報発信					
目的	観光に訪れた方の観光二次交通の整備を行うことと、阿武隈急行株式会社や観光事業者と連携して、地域公共交通の周知を行い利用促進を目指します。					
内容	○観光二次交通として、るんるん号やデマンド交通あし丸くんの利活用を推進します。 ○るんるん号は、冬季（12月から3月）期間中は運休しており、観光二次交通としての運行通年化を検討する必要があります。（再掲） ○阿武隈急行株式会社や観光事業者と連携し、町外の方に対して地域公共交通の周知を図り利用促進を目指します。					
実施主体	丸森町地域公共交通会議／丸森町（企画財政課、商工観光課）／丸森町 商工会／交通事業者／阿武隈急行株式会社					
実施期間	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
	検討・準備・随時実施					

施策 5 地域公共交通の利用環境における DX の推進

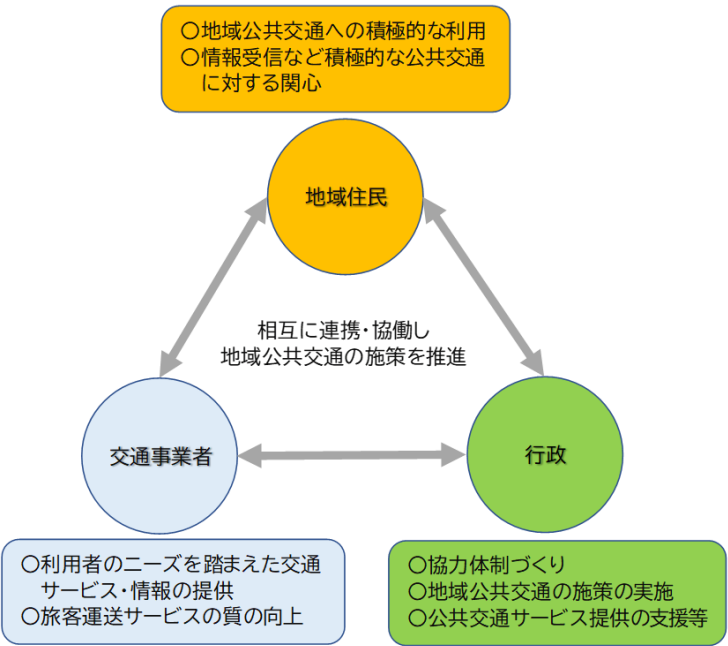
事業名	[5-1] 運賃（料金）の支払方法の多様化					
目的	キャッシュレス決済を導入し利用促進と利便性を高めます。					
内容	○アンケート調査結果から、町民バスやデマンド交通あし丸くにキャッシュレス決済を導入することを検討します。また、支払方法のニーズに沿った地域公共交通の体制を構築することを目指します。 ○地域公共交通の利便性を高めるため、町民バスやデマンド交通あし丸くの、共通乗車券を検討します。					
実施主体	丸森町地域公共交通会議／丸森町（企画財政課）／丸森町 商工会／交通事業者					
実施期間	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度
	検討・準備・随時実施、必要に応じた検討・見直し					

事業名	[5-2] DX の導入による地域公共交通の更なる利便性の向上					
目的	公共交通に DX を導入し、ドライバーの負担軽減を目指します。					
内容	○DX を推進し、ドライバーや事務従事者の業務の効率化を目指します。 ○AI 技術の導入（活用）により新たな公共交通のサービスの提供を検討し、更なる利用促進を図ります。 ○町の各種イベントと公共交通を組み合わせ、サービスの向上を検討します。					
実施主体	丸森町地域公共交通会議／丸森町（企画財政課）／丸森町 商工会／交通事業者					
実施期間	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度
	検討・準備・随時実施、必要に応じた検討・見直し					

6-4 推進体制

本計画の目標の達成に向けて、行政、地域住民、交通事業者及びその他関係機関が課題を共有し、相互に連携してそれぞれの役割を補完しながら、町民の生活を支える基盤として地域公共交通の各種事業を推進します。

また、地域住民の代表や有識者で構成する丸森町地域公共交通会議において、本計画の進捗や各施策の目指すべき方向性について、適宜見直しを図りながら、計画を円滑に推進します。



6-5 評価の方法及びスケジュール

本計画の評価は、計画期間の最終年度（令和11年度）における各種調査結果などを踏まえ、計画全体に関する評価・検証を行います。また、必要に応じて計画の見直しを行うなど、社会動向や進捗状況を考慮しながら本計画を推進します。

本計画に定めた事業の実施状況に関する評価については、地域住民の代表や有識者で構成する丸森町地域公共交通会議において、毎年度実施いたします。

項 目		R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
評価方法	利用者数調査	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	利用者アンケート	○		○		○		○
	住民アンケート						◎	
事業実施の評価		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
本計画の評価・検証								◎
目標値などの見直し				○		○		◎
丸森町地域公共交通会議の開催		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

凡例：◎実施 ○必要に応じて実施

丸森町地域公共交通計画

策定：令和 年 月
発行：丸森町
〒981-2192
宮城県伊具郡丸森町字鳥屋 120
電話：0224-72-3024（企画財政課）

デマンド交通「あし丸くん」の実証実験結果



目次

令和4年度までの利用実績	P1～2
実証実験の実施概要	P3
実証実験の背景と目的	P4
実証実験期間の実績	P5～14
• 利用者数	
• 利用者の属性	
• 乗降場所の分布	
• 利用時間の分布	
• 午前中（8：00-11：00）地区別の乗降状況	
• 予約方法	
• 支払方法	

令和4年度までの利用実績(1/2)

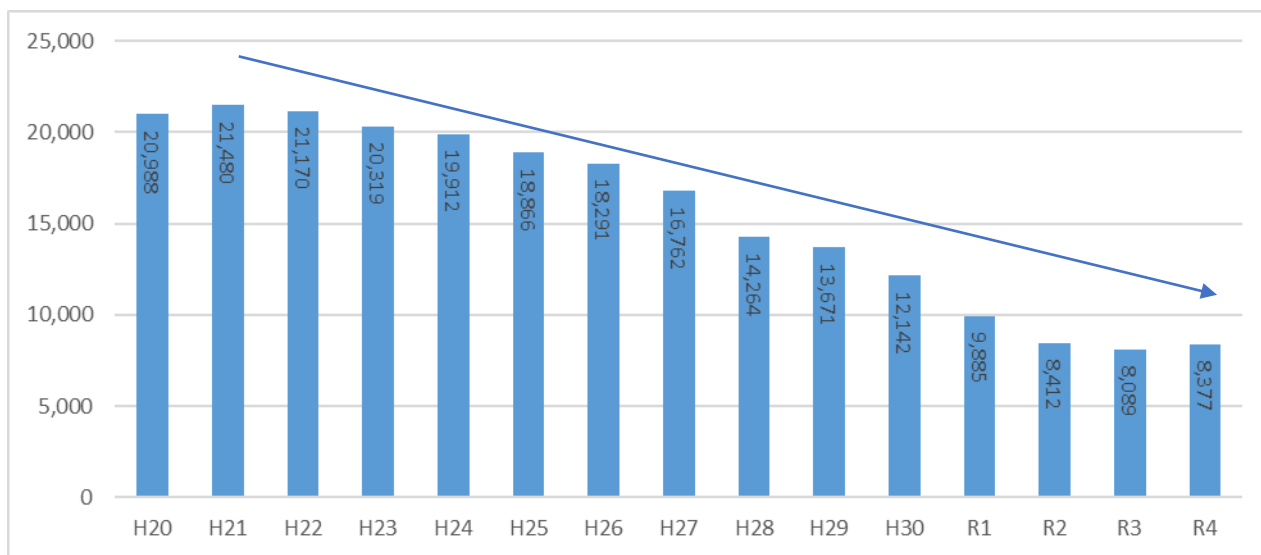


図1 利用者の推移

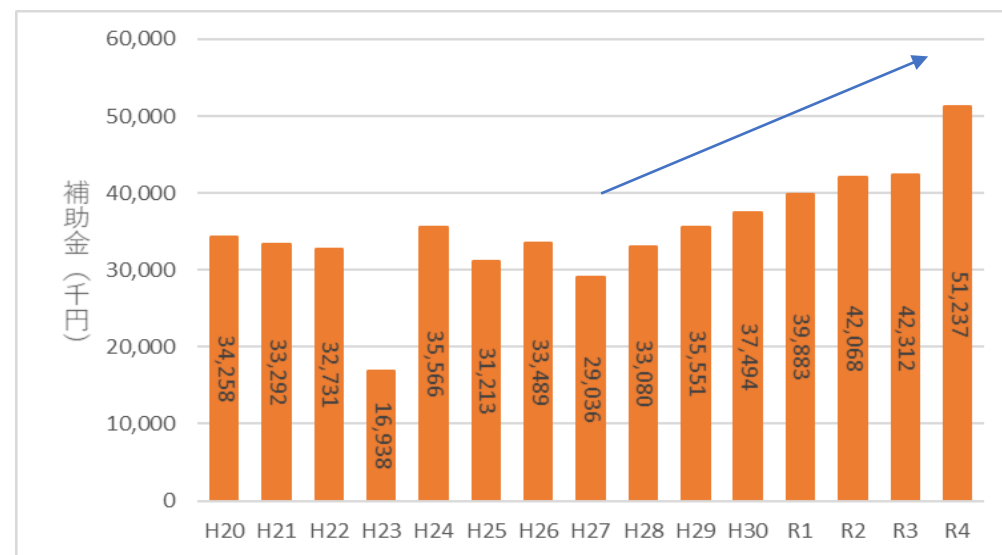


図2 補助金の推移

運行を開始した平成20年からの利用者数は平成21年度をピークに減少し続けています。令和元年東日本台風災害の影響により、令和元年度からは年間の利用者数が10,000人を下回り、さらに新型コロナウイルス感染症による外出自粛等の影響もあり利用者数の減少に拍車がかかっています。(図1)

一方で、運行経費である補助金は増加傾向であり、令和4年度には5千万円を超えています。(図2)
補助金の中には、6台の車両の借上げ、配車システム料が大半を占めており、経費の適正化に向けた見直し
が課題となっています。

令和4年度までの利用実績(2/2)

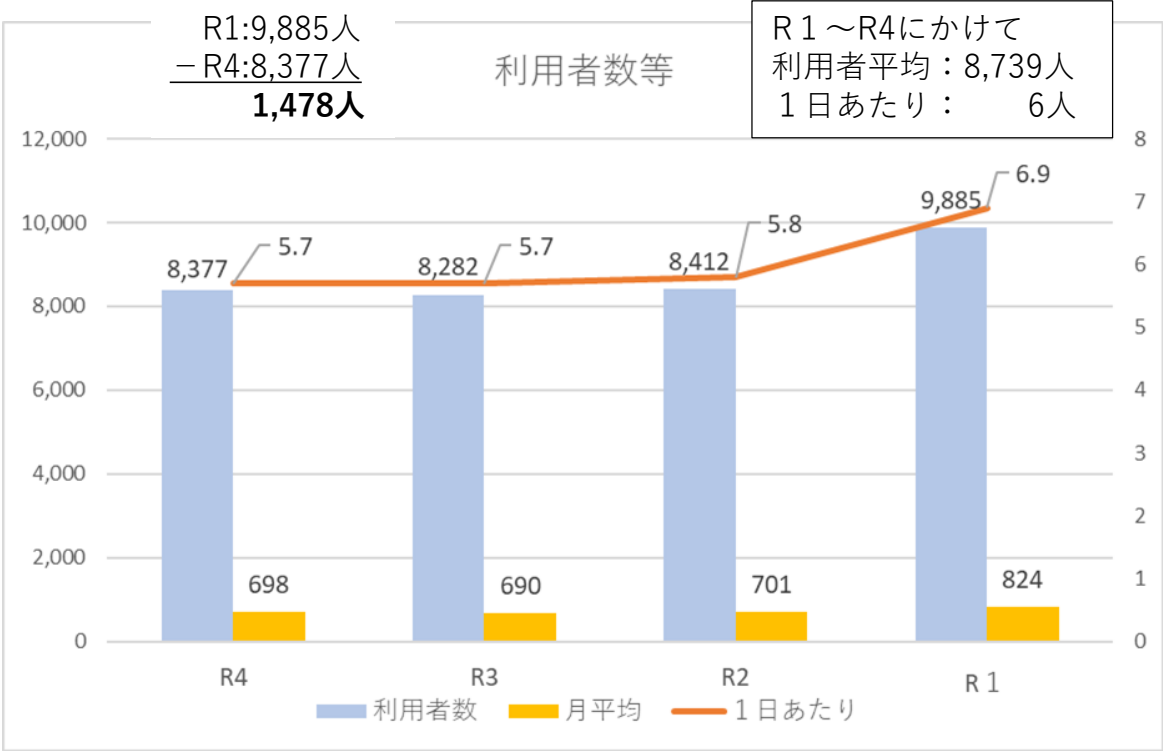


図3 利用者の推移 (R1～R4)

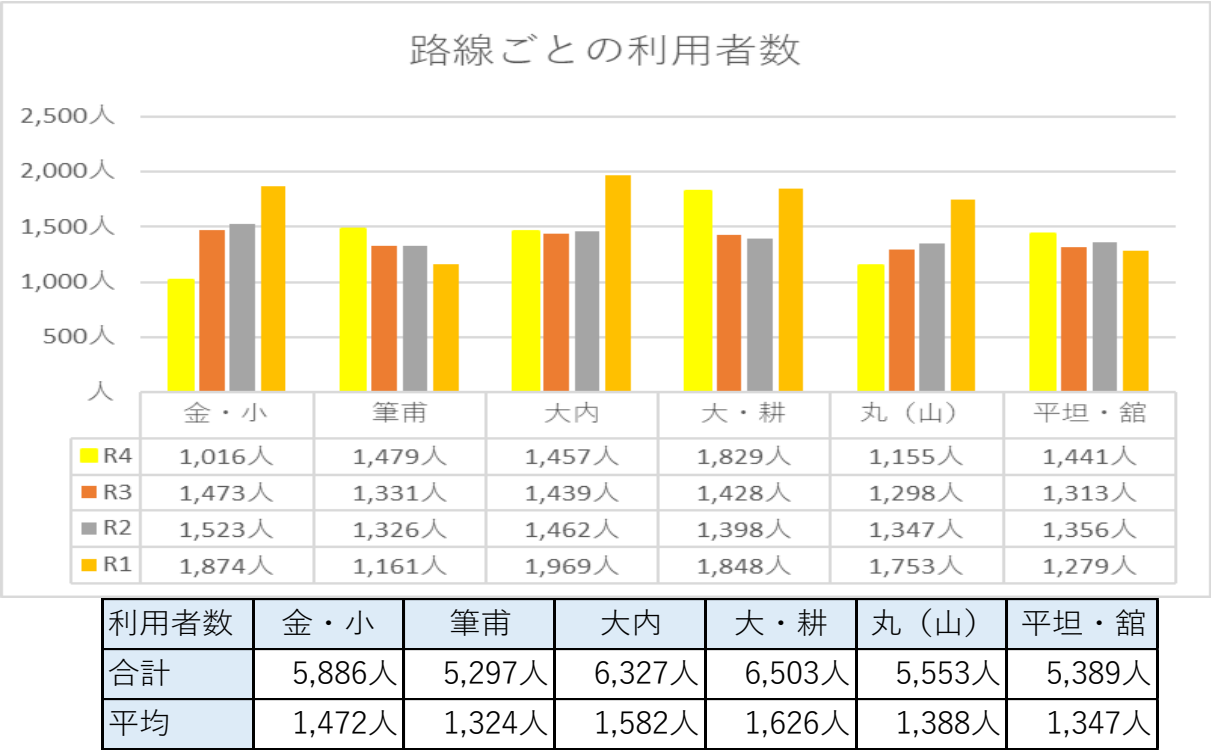


図4 路線ごとの利用者 (R1～R4)

令和4年度の利用者数は8,377人となっており、令和元年度と比較すると1,478人減少している。

1日あたりの利用者は、R1からR4年にかけて平均6人となっている。(図3)

路線ごとに利用者を見ると、「大張・耕野」が最も多く、次いで「筆甫」、「大内」、「平坦部・館矢間」、「丸森山間部」、「金山・小斎」となっている。(図4)

実証実験の実施概要

実施期間

令和6年1月15日（月）～3月29日

運行エリア

丸森町町内全域

運賃

- 一般（高校生以上）：300円
- 小・中学生、障がい者：200円
- 未就学児（保護者同伴）：無料

運行日

月曜日から金曜日（土・日・祝日・年末は運休）

ダイヤ

なし

車両

ワンボックスカー（ハイエース）4台

予約方法

- 電話予約受付
- Web（インターネット）予約受付

新しい丸森町予約型乗合タクシー「あし丸くん」で便利に町内移動

丸森町では、住民の皆さんの移動をお助けするため、令和6年4月1日より、AI（人工知能）を活用して乗合運行サービスを大きく見直す予定です。町内ならどこでも行けて、決まった時間も決まったルートもない、便利な移動ができる、新たな「あし丸くん」の実証運行を令和6年1月15日から開始します。ぜひご利用ください！

- 電話とWEB、好きな方法で予約受付します
- 乗り合い交通で、気軽に町内の目的地へ走ります
- 決まった時刻表がないので、運行時間内ならいつでも運行します
- 家の前から町内の指定頂いた場所まで行きます（道路によっては除きます）

料金や予約方法など使い方は裏面へGO

丸森町商工会 0224-72-1230 | 丸森町企画財政課 MARUMORI TOWN

運行曜日	運行時間	運賃
月～金曜 土日祝・年末年始は運休	8:30～16:30 時間内ならいつでも利用可能	高校生以上 300円 障がい者・小中学生 200円 未就学児 無料 ※1 手帳をお見せください ※2 保護者同伴です
運行区域	予約方法	支払方法
丸森町内全域 システムに登録されている場所のみで道路などとは除きます	電話かWEB (7:30～16:00) 1週間前から予約できます	現金・回数券 オンライン決済（予定）

電話での予約は
予約センター(7:30～16:00)
0224-73-1515

WEBでの予約は
<https://passenger.savs.marumori.com/marumori/>
(7:30～16:00)

1 予約センターに電話して、以下のことを伝えてください。

- ①希望利用日時 ④乗車人数
- ②乗る場所 ⑤お名前
- ③降りる場所 ⑥電話番号

●●●●の予約をお願いします。
●日の13時頃、●●2-3の自宅からフレスコキタまで2名乗ります。
名前は●●、電話番号は●●です。

予約受付いたしました。
乗り合い予定ですので、●時頃のお迎え予定です。

※初めてご利用の場合は、利用者情報をお伺いします。

1 上記にアクセスして、利用者登録します。

2 マップ上で乗りたい場所と降りたい場所を指定します。

3 希望日時と乗車人数を選択します。確定ボタンを選択すると、予約が完了します。

予約した時間に予約した場所で待ち、乗車します。

降りるときに乗務員に運賃を支払います。

阿武隈急行への乗り換えも！

△通常のタクシーとは異なり、1台に複数人が乗り合いますので、希望した時間に間に合わない場合があります。「〇時までにいきたい」などのご利用は難しい場合があります。余裕をもってご予約ください。
△乗務員は予約受付できません。ご予約は、予約センターまたはWEBでお願いします。

チラシ

実証実験の背景と目的

背景

本町では、平成20年に「丸森町予約型乗合タクシーあし丸くん」の運行を開始し、令和5年で16年目を迎える。

住民の身近な移動手段を確保し安心・安全で快適な暮らしを支える役割を担う地域公共交通として、丸森町商工会が運営主体となり、それぞれの地区の特性に合わせて運行してきた。

しかしながら、利用者の減少が著しい中で運行経費が増加しており、課題を整理するとともに事業内容の見直しが必要となっていた。

このような状況を受け、本町では配車システム、車両台数の変更、乗降場所、エリア、利用登録制の見直しを行い、令和6年1月15日から3月29日にかけて実証実験を開始した。

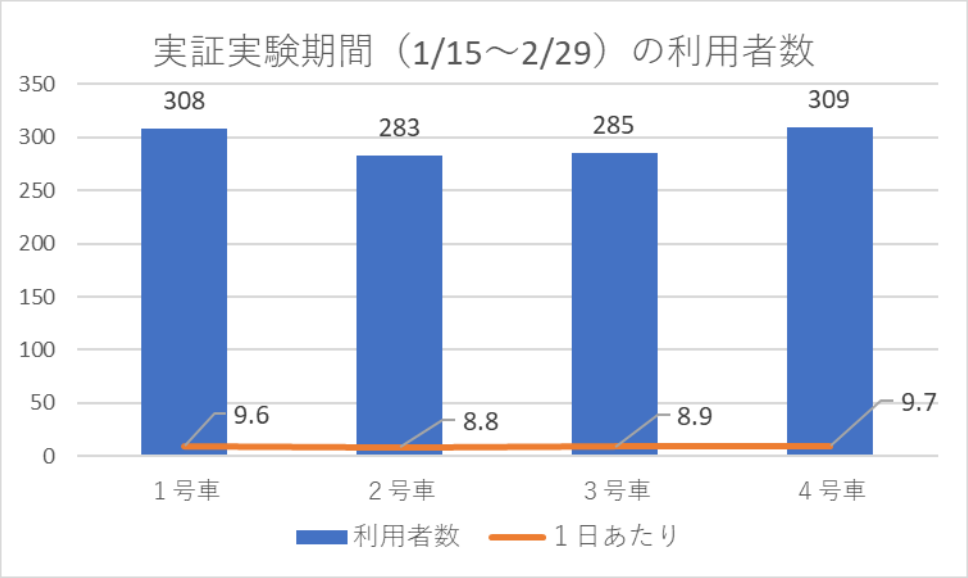
目的

今回の実証実験では、これまでの町内のエリア分けや既定の路線、エリアごとのダイヤを撤廃し、人工知能を搭載したAIオンデマンド運行の実現に向けた実証実験を行うもの。

また、配車システムの見直しも行い、電話予約受付以外にもWeb（インターネット）予約受付を可能とし、町民のほか観光や帰省に訪れた方でも利用することでできることを目的としている。

実証実験期間(1/15~2/29)の実績

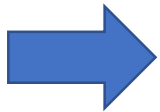
[利用者数]



R 4 年度～R 元年度における 2 月利用者数

年度	2 月の利用者数
R4	618
R3	669
R2	669
R1	731

平均
671人



R 5 . 2 月の利用者数

734人

9%の
増加！

R5年度AI乗合ミニバス 月別・地区別利用者数推移<実証実験期間>					
令和5年		1月15日から	2月	3月	合計
1号車	利用者数(人)	110	198		308
	乗合回数	28	60		88
	電話予約件数	92	197		289
	WEB予約件数	3	1		4
	運行日数	13	19		32
	キロ	2,059.83	2,625		4,684.83
2号車	利用者数(人)	105	178		283
	乗合回数	38	71		109
	電話予約件数	92	176		268
	WEB予約件数	3	2		5
	運行日数	13	19		32
	キロ	1,665.45	2,621		4,286.45
3号車	利用者数(人)	110	175		285
	乗合回数	42	65		107
	電話予約件数	98	175		273
	WEB予約件数	1	0		1
	運行日数	13	19		32
	キロ	1,590.07	2,525		4,115.07
4号車	利用者数(人)	126	183		309
	乗合回数	45	80		125
	電話予約件数	110	181		291
	WEB予約件数	2	2		4
	運行日数	13	19		32
	キロ	1,638.71	2,498		4,136.71
利用人数合計		451	734	0	1,185
運行日数合計		13	19	0	32
乗合率		34%	38%	#DIV/0!	#DIV/0!

実証実験期間（R6.1.15～2.29）での利用者は、全体で1,185人（1,185人/32日）となった。

実証実験期間(1/15~2/29)の実績 [利用者の属性]

利用者	一般	障がい者	小・中学生	未就学児	合計
1号車	268	35	5	0	308
2号車	252	28	3	0	283
3号車	249	31	5	0	285
4号車	261	43	5	0	309
合計	1,030	137	18	0	1,185

図5 利用者の属性

	利用者	割合
丸森	45人	(21%)
金山	16人	(8%)
筆甫	25人	(12%)
大内	55人	(26%)
小斎	15人	(7%)
舘矢間	22人	(10%)
大張	16人	(8%)
耕野	16人	(8%)

図6 利用者の居住地（実人数）

	利用者	割合
丸森	255人	(25%)
金山	79人	(8%)
筆甫	121人	(12%)
大内	213人	(21%)
小斎	90人	(9%)
舘矢間	103人	(10%)
大張	106人	(10%)
耕野	69人	(7%)

図7 利用者の居住地（のべ人数）

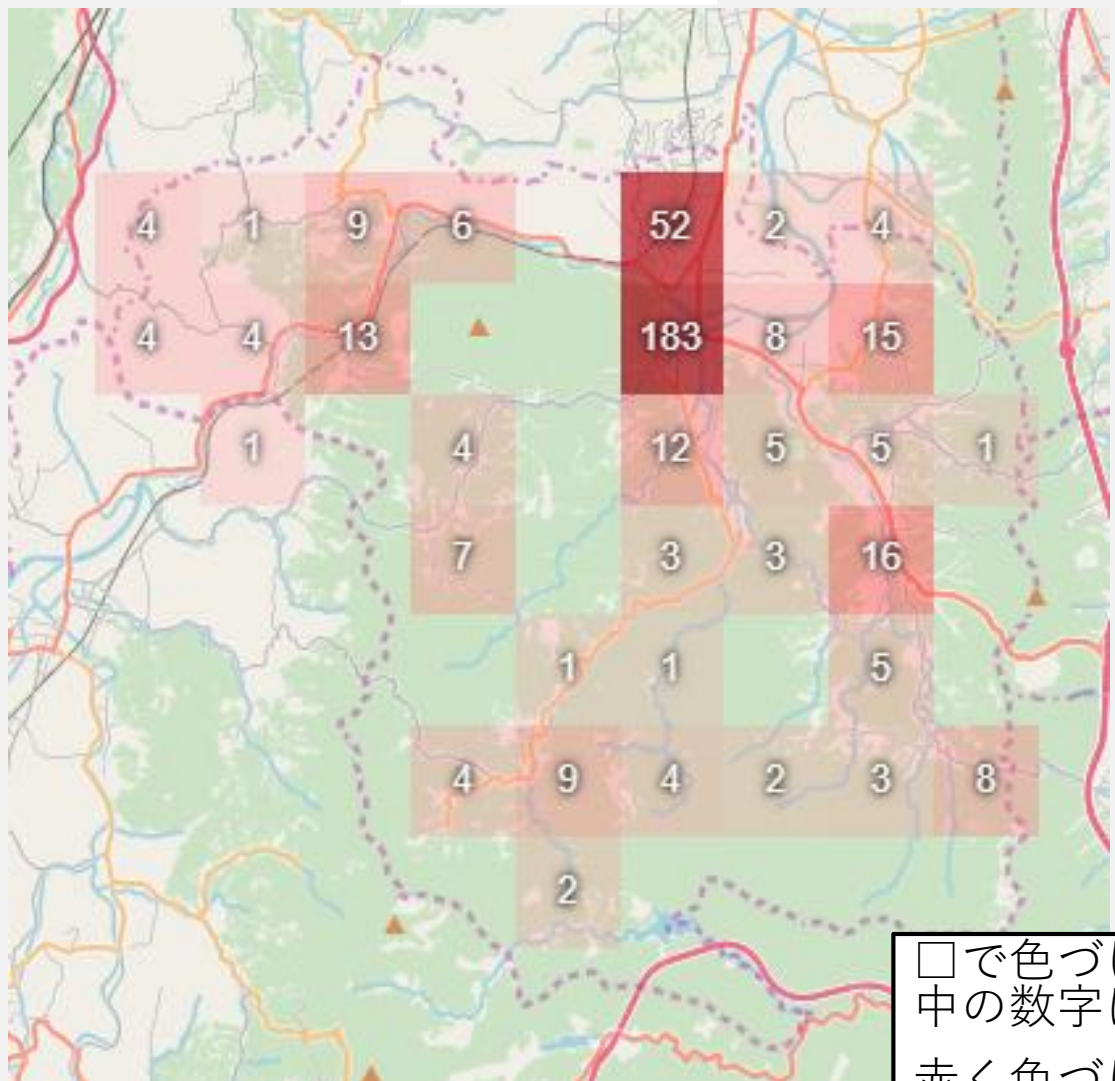
利用者は、一般（高校生以上）が最も多く1,030人となり、次いで障がい者137人、小・中学生の利用は18人となった。（図5）

利用者の実人数は、大内地区が最も多く55人（26％）となり、次いで丸森地区が45人（21％）、筆甫が25人（12％）となった。（図6）

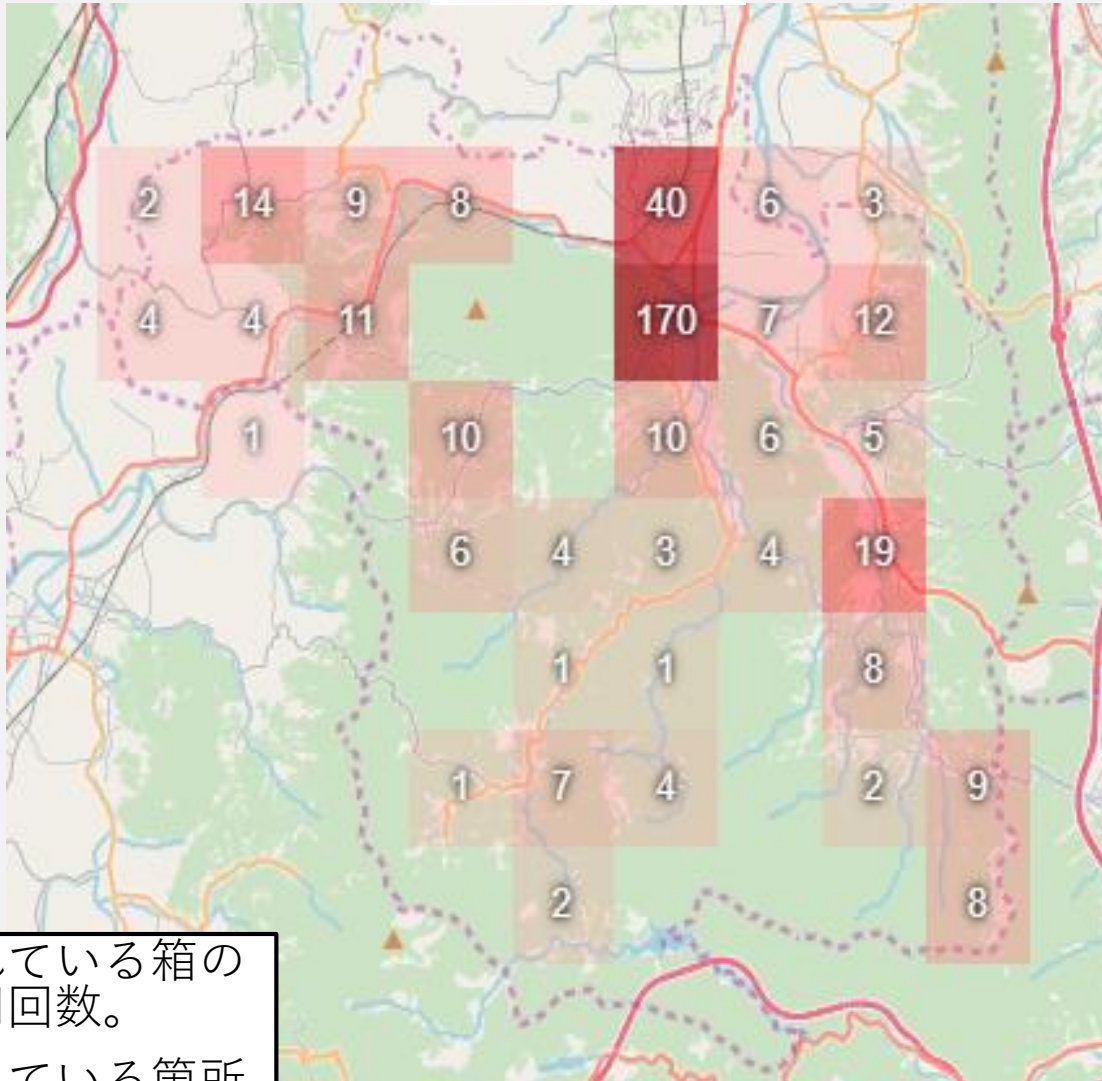
また、利用者の延べ人数は、丸森地区が255人（25％）と実人数と同じく最も多く、次いで大内地区が213人（21％）、筆甫が121人（12％）で実人数と類似している。（図7）

実証実験期間(1/15~1/31)の実績 [乗降場所の分布]

乗車場所



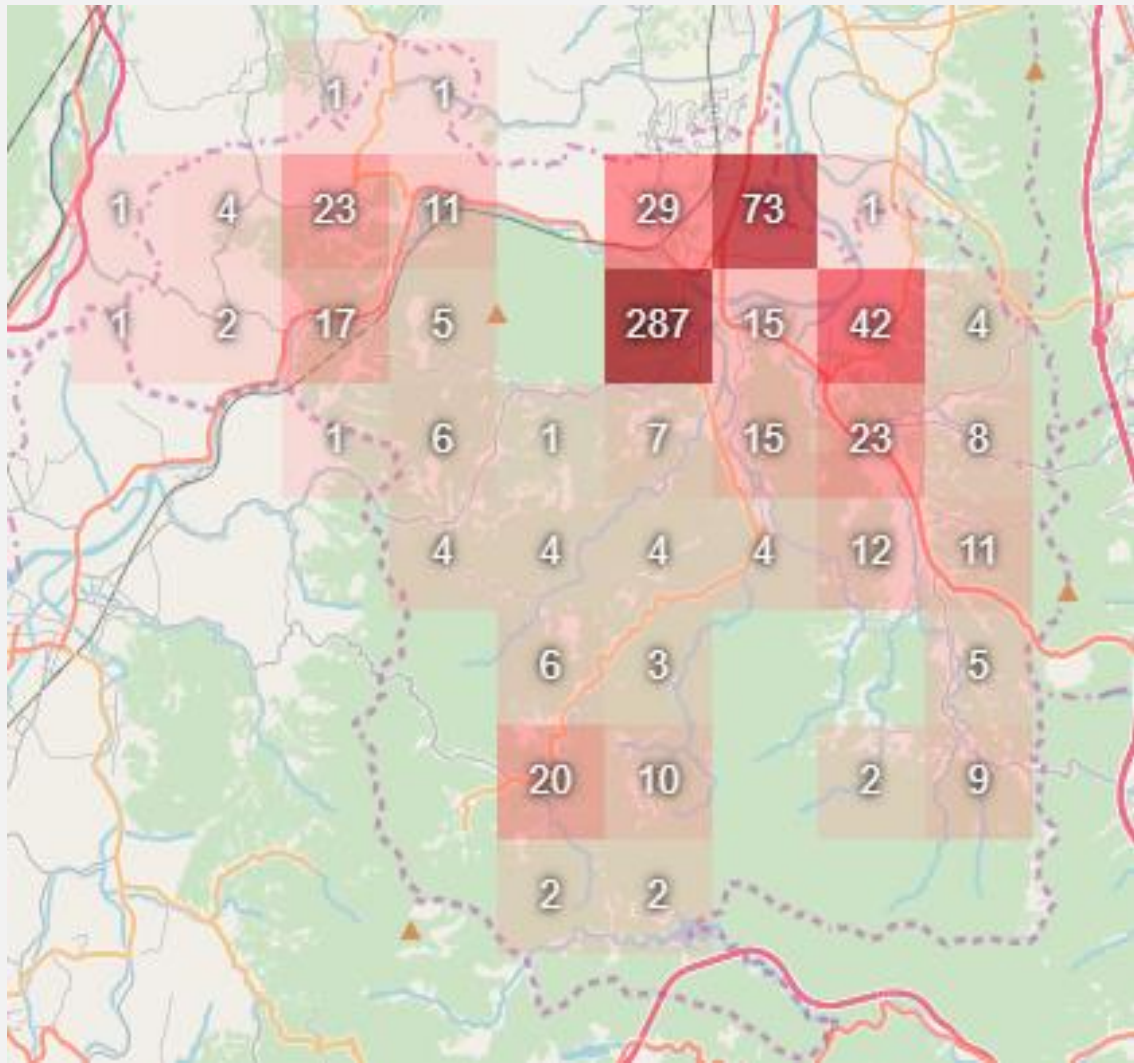
降車場所



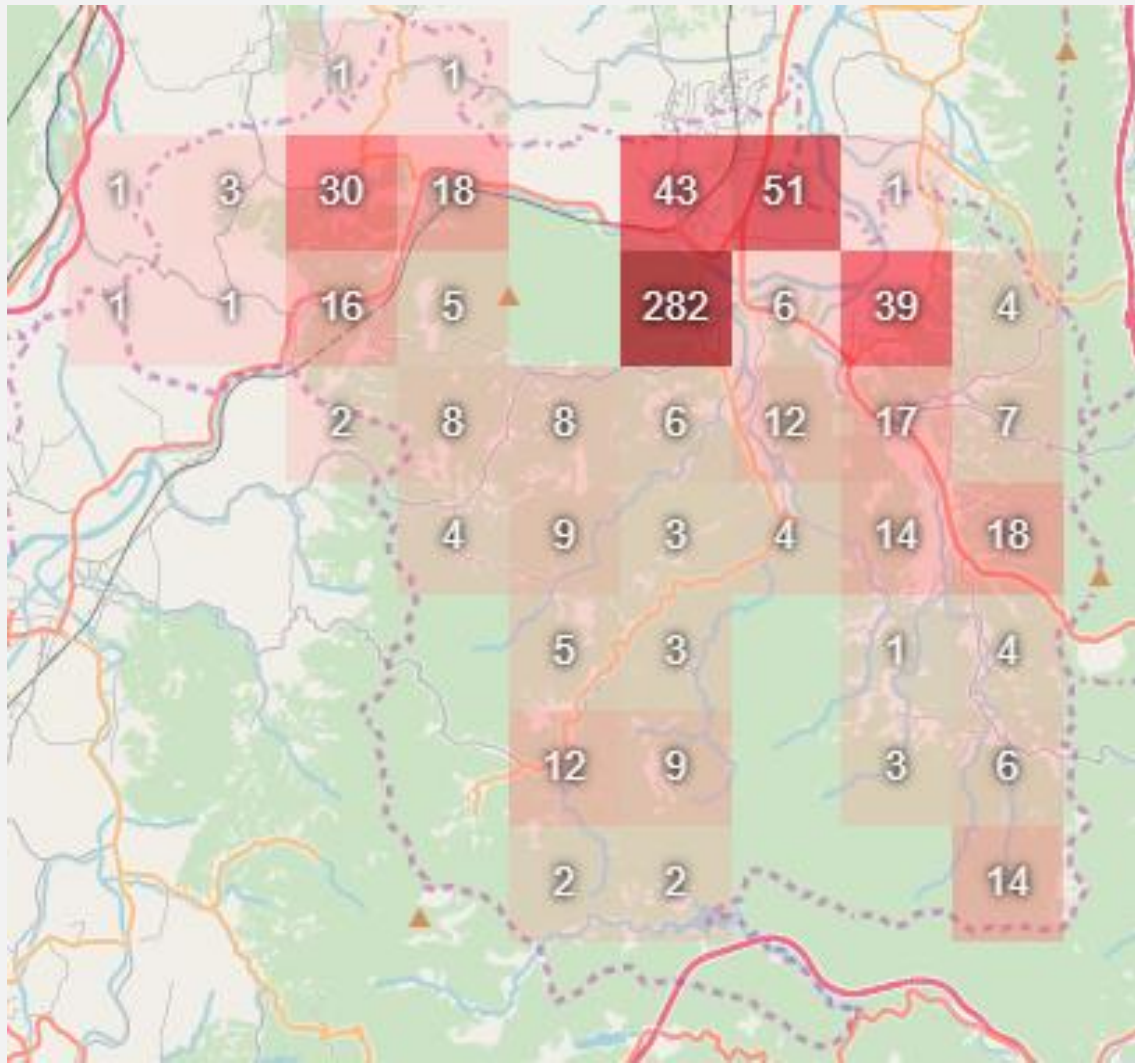
□で色づけされている箱の中の数字は利用回数。
赤く色づけされている箇所が、利用回数が多い区域。

実証実験期間(2/1~2/29)の実績 [乗降場所の分布]

乗車場所



降車場所



実証実験期間(1/15～2/29)の実績 [乗降場所の分布]

順位	乗車場所	回数	順位	降車場所	回数
1	スーパービック丸森店	170	1	丸森病院	161
2	フレスコキクチ	52	2	丸森歯科	44
3	丸森病院	57	3	丸森町役場	29
4	あし丸くん予約センター	35	4	スーパービック丸森店	27
5	サイカ調剤薬局丸森病院前店	31	5	丸森駅	27
6	薬王堂丸森支店	23	6	薬王堂丸森支店	26
7	八雄館	22	7	丸森郵便局	23
8	丸森中学校	22	8	フレスコキクチ	20
9	丸森駅	22	9	山本医院	14
10	丸森歯科	18	10	谷津歯科	11

図8 乗降場所の分布（回数）

7、8 ページで示したとおり、まちなかの乗降が最も多いことがわかる。

乗車場所で最も多い場所は「スーパービック丸森店」で170回、次いで「フレスコキクチ」52回、「丸森病院」57回となった。

降車場所で最も多い場所は「丸森病院」で161回、次いで「丸森歯科」44回、「薬王堂丸森店」29回となった。（図8）

実証実験期間(1/15~1/31)の実績 [利用時間の分布]

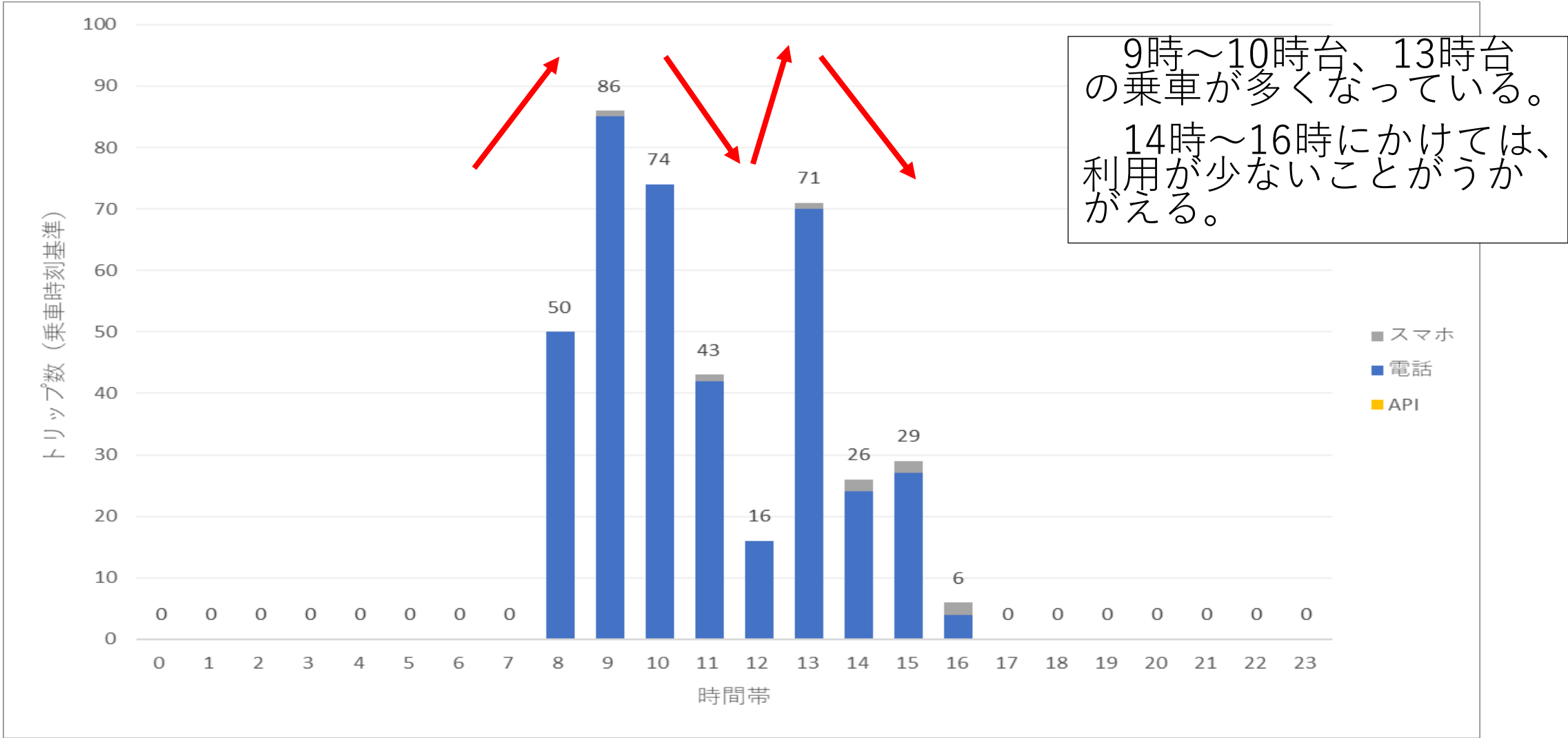


図9 利用時間の分布 (1/15~1/31)

実証実験期間(2/1~2/29)の実績 [利用時間の分布]

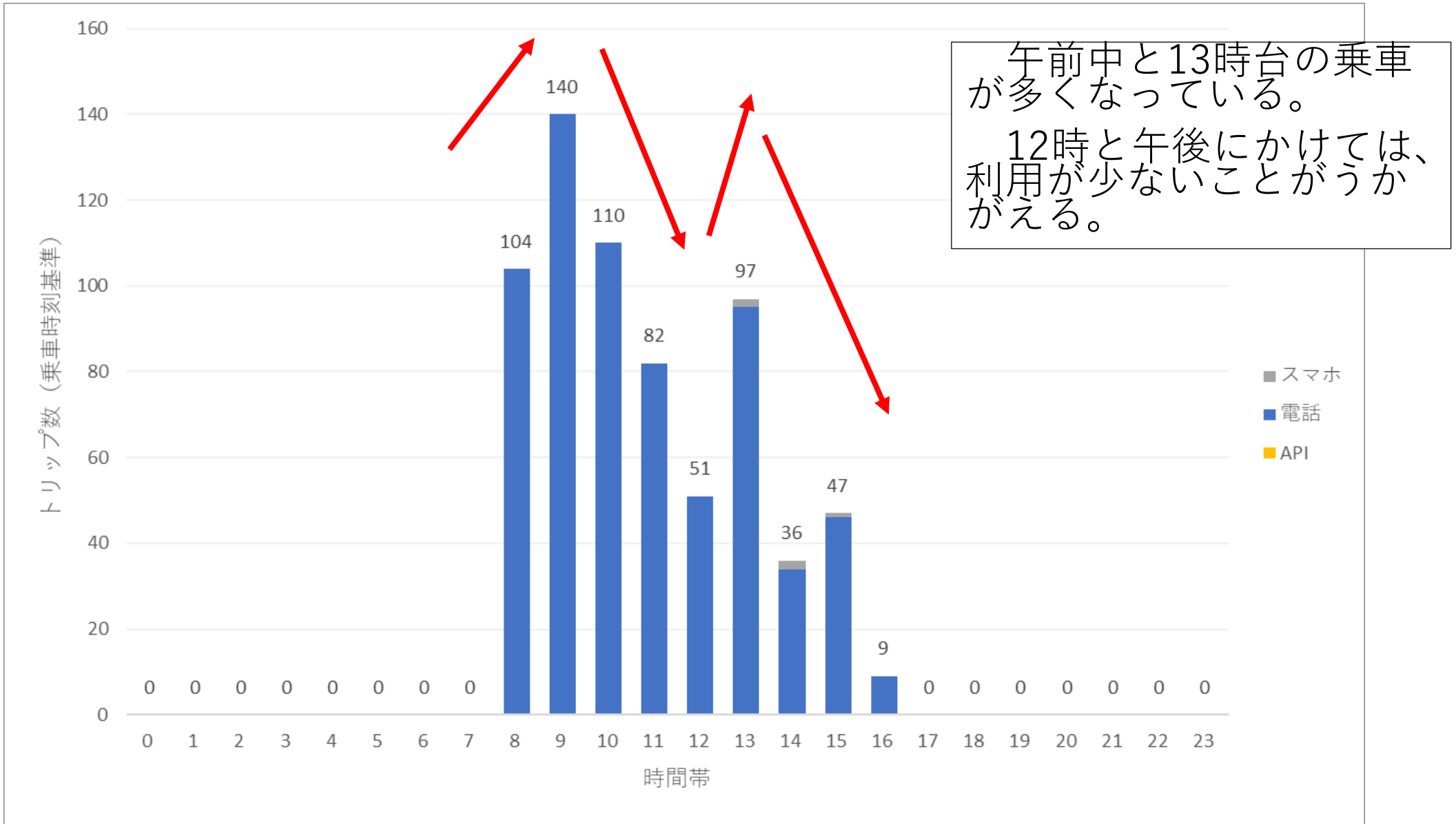


図10 利用時間の分布 (2/1~2/29)

実証実験期間(1/15～2/29)の実績 [午前中(8:00-11:00)地区別の乗降状況]

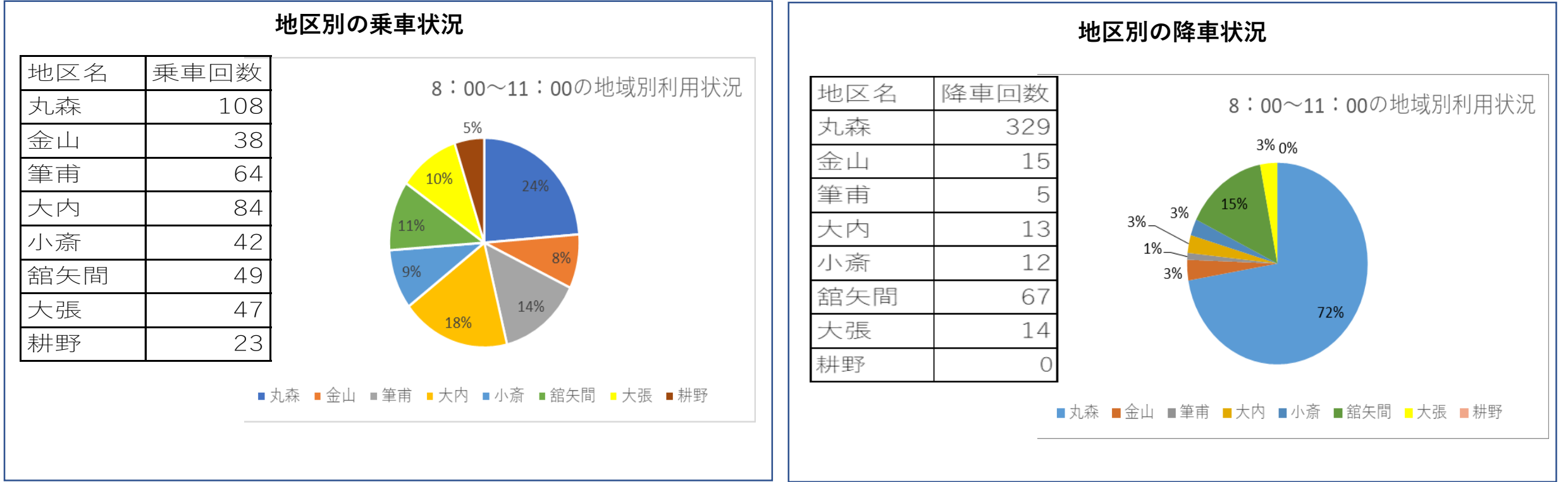


図11 地区別の乗降状況 (2/1～2/29)

上記地区別の乗降状況を見ると、丸森地区間での移動が最も多いことがわかる。
次いで、丸森地区以外の7地区から丸森地区への移動の需要が高いことがわかる。
また、舘矢間地区への移動需要も高いことがうかがえる。

実証実験期間(1/15～2/29)の実績 [予約方法]

項目	回数
電話予約者数	1,171
WEB予約者数	14

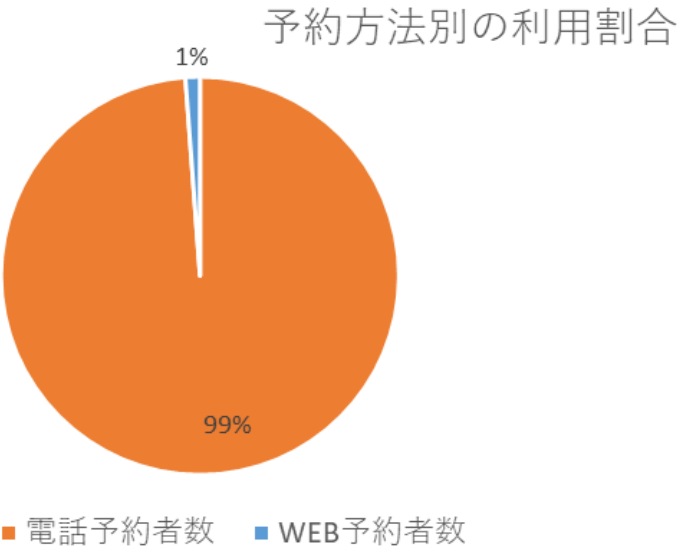


図12 予約方法別の実績

予約方法は、電話予約が1171回と全体の99%を占める結果となった。

WEB予約は、14回となり全体の1%となった。

WEB予約の場合、オペレータを介せずAIが自動で予約を受け付けるため、オペレーターの負担軽減が期待されるが、軽減できていないことが課題となっている。

実証実験期間(1/15～2/29)の実績 [支払方法]

	200円券		100円券		現金支払 円	合計 円
	枚数	円	枚数	円		
1号車	243	48,600	4	400	38,800	87,800
2号車	219	43,800	3	300	37,700	81,800
3号車	224	44,800	4	400	36,700	81,900
4号車	248	49,600	2	200	37,500	87,300
合計	934	186,800	13	1,300	150,700	338,800

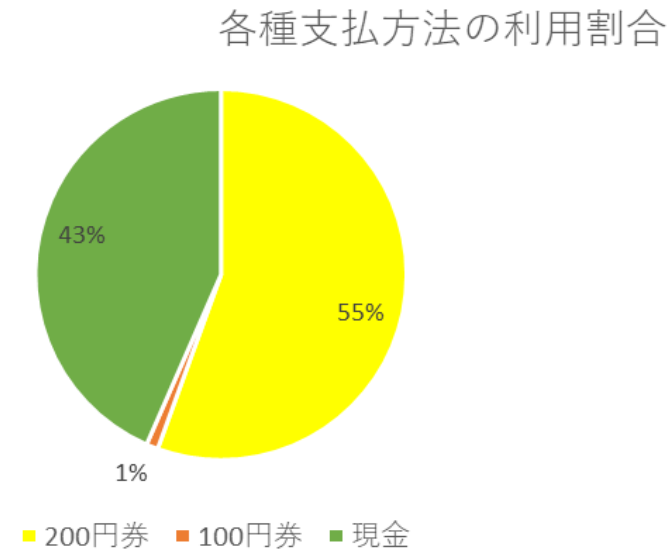


図13 支払方法別の実績

支払方法を見ると、回数券200円券が934枚（186,800円）と利用が最も多い。次いで、現金支払が150,700円となっている。

回数券200円券と現金支払の併用や新規ユーザーは現金のみの支払いをしていることがうかがえている。

デマンド交通「あし丸くん」の実証実験アンケート調査
(3月1日時点)報告書

1.調査の概要

(1)調査の目的

令和6年1月15日(月)より、新たな「丸森町AI乗合ミニバス あし丸くん」の実証実験を開始することに伴い、利用者の人的情報や利用・予約方法、満足度等のアンケート調査を行い、実証実験での成果や今後の公共交通の事業展開の参考資料とするため、実施しているもの。

(2)アンケート調査実施場所

- ・あし丸くんの車内(4台)
- ・阿武隈急行線-丸森駅
- ・あし丸くん予約センター
- ・丸森町商工会
- ・丸森町役場

(3)本アンケートの対象者

本アンケートは、あし丸くんを利用したことがある方を対象に年齢などの属性や利用方法、満足度などを調査するもの。

(4)アンケート調査結果の利用

本アンケートは、以下のことで利用する。

- ・あし丸くんをはじめとする公共交通全体で、利用者のニーズや実態を把握し事業展開の参考資料として利用する
- ・丸森町地域公共交通会議において、課題を整理し協議する参考資料として利用する

2.回答者の属性

(3)回収(回答)数と年代別の構成

3月1日時点では、回答は87票得られた。

アンケートの回答者の年代別構成は、80歳代以上が52%となっており、次いで70歳代が24%、65歳から69歳は6%となっている。(図2-1)

アンケートの回答者の年代と性別を見ると、70歳代から80歳代以上の女性の利用が圧倒的に多いことがわかる。(図2-2)

また、丸森町で実施したアンケート調査結果と比較すると、70歳代から80歳代以上の女性の運転免許証の保有率と一致しており、地域公共交通のニーズも多いことがわかる。

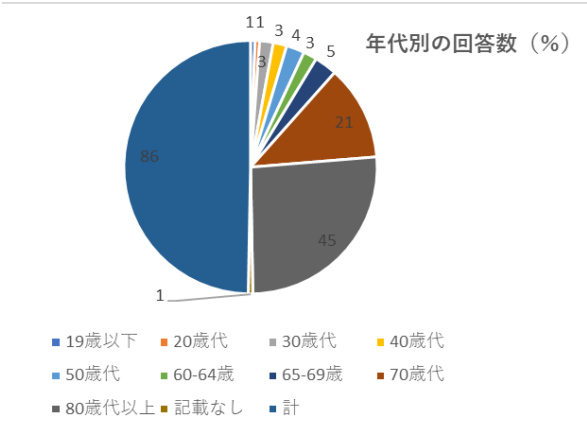


図 2-1(年代別の回答数)

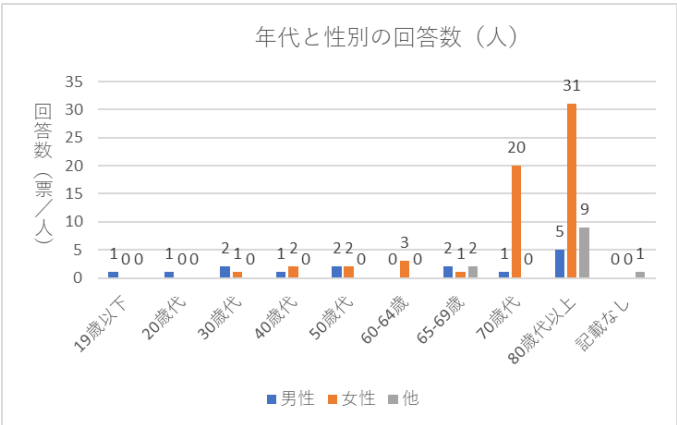


図 2-2(年代と性別の回答数)

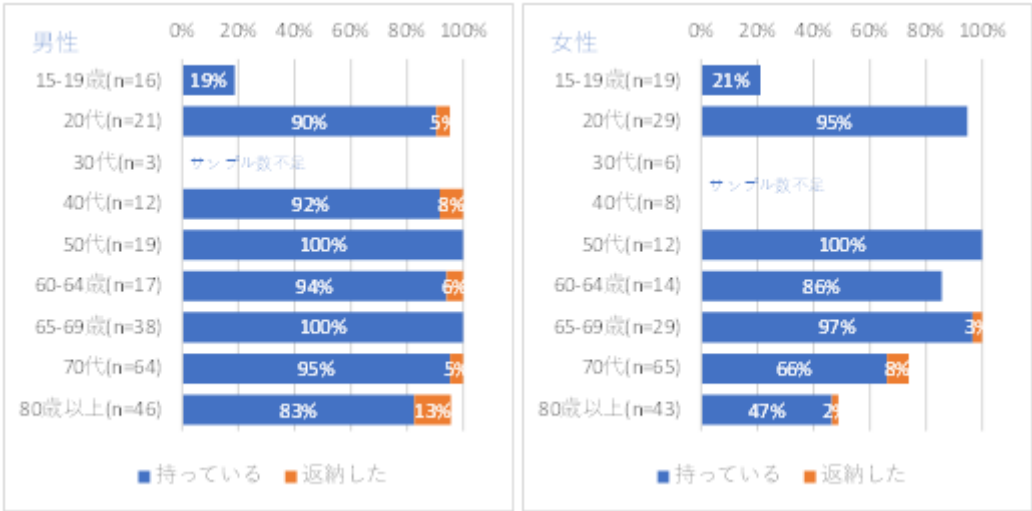


図 2-3(自動車運転免許の保有率と返納率)
町実施アンケート調査結果より抜粋

3.地区別の回答

地区別の回答数は、大内地区が最も多く 20 票で全体の 23%、次いで丸森地区が 17 票で全体の 20%となり関心が高いことがうかがえる。一方、金山地区や舘矢間地区、大張地区はそれぞれ回答数が 10%以下となり、比較的回答数は少ない。

また、町外の利用者からの回答は2票で全体の2%となっている。(図 3-1)

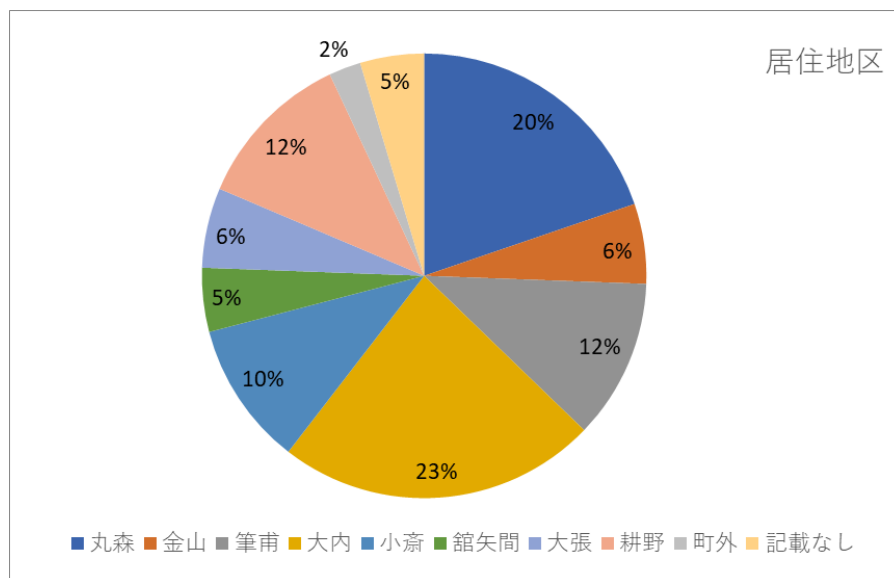


図 3-1(地区別の回答数)

4.あし丸くんの利用用途

利用用途を見ると、通院が 46 票で一番多く次いで、買い物が 31 票となっている。
その他については、14 票となっており、施設面会や食事、仕事での打合せ、ボランティア活動などが挙げられた。(図 4-1)
また、丸森町で実施した住民アンケート調査結果と比較すると、町民バスや阿武隈急行線よりも利用されており、一致している。(図 4-2、4-3)

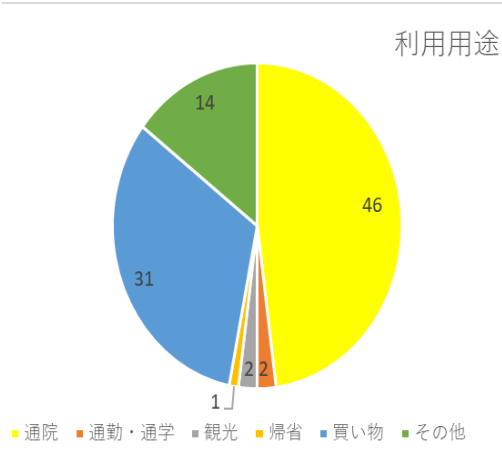


図 4-1(あし丸くんの利用用途)

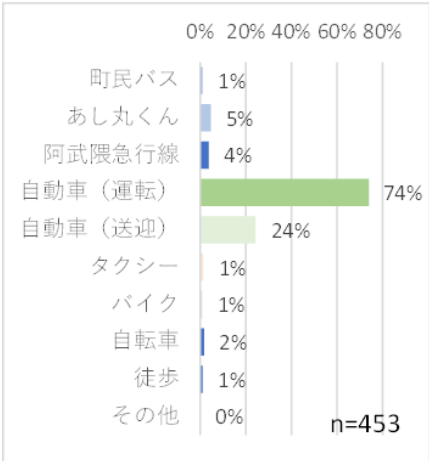
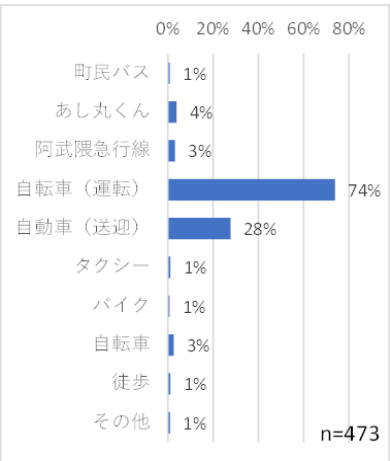


図 4-2（通院時の移動手段）



（買い物時の移動手段）

町実施アンケート調査結果より抜粋

実証実験期間(1/15～1/30)の利用者の乗降場所の分布では、乗車場所は「スーパービック丸森店」、降車場所は「丸森病院」が最も多い結果となり、「図 4-1」の利用状況と一致していることがうかがえる。

順位	乗車場所	回数	順位	降車場所	回数
1	スーパービック丸森店	66	1	丸森病院	65
2	フレスコキクチ	22	2	丸森歯科	20
3	丸森病院	18	3	薬王堂丸森支店	13
4	あし丸くん予約センター	14	4	丸森町役場	12
5	サイカ調剤薬局丸森病院前	13	5	スーパービック丸森店	10
6	丸森歯科	9	6	フレスコキクチ	9
7	薬王堂丸森支店	9	7	山本医院	8
8	八雄館	8	8	丸森駅	7
9	丸森中学校	8	9	丸森郵便局	6
10	丸森駅	7	10	谷津歯科	5

表 4-1(あし丸くんの利用用途)

5.予約方法

利用する際の予約方法を見ると、電話予約が 91%を占めており、インターネット(WEB)予約が 7%と 10%を下回る結果になった。(図 5-1)

電話予約者とインターネット(WEB)予約者を年代別に比較すると、最も利用者が多い 80 歳代以上は 45 人中 44 人が電話予約をしており、インターネット(WEB)予約者は1名のみとなっている。

70 歳代も、19 人が電話予約、1人がインターネット(WEB)予約と回答された。

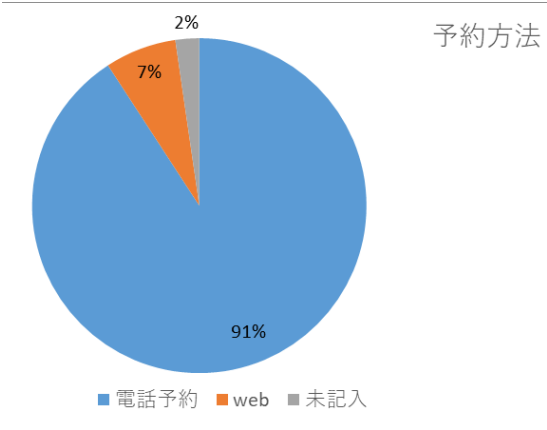


図 5-1(予約方法の割合)

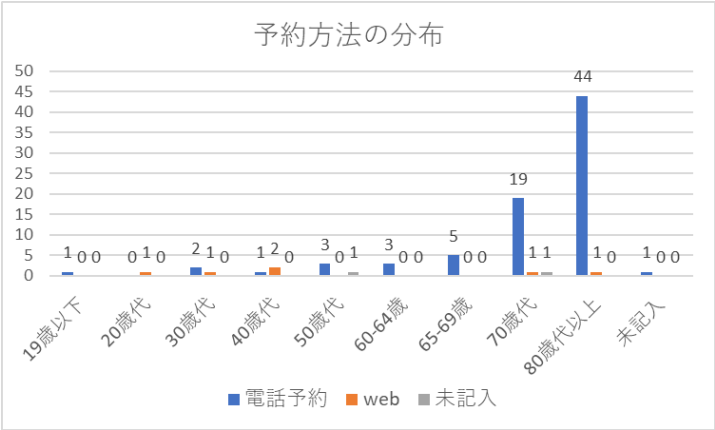


図 5-2(予約方法の分布)

5-2.電話予約

電話予約をしている方のスマートフォンの保有率を見ると、全体で保有していない方が多い結果となった。

年代別に比較すると、80 歳代以上は 21 人次いで、70 歳代は 11 人と保有していない人が上回っている。

また、丸森町で実施したアンケート調査結果では、70 歳代から 80 歳以上が比較的保有していない方が多い傾向にあり、一致している。

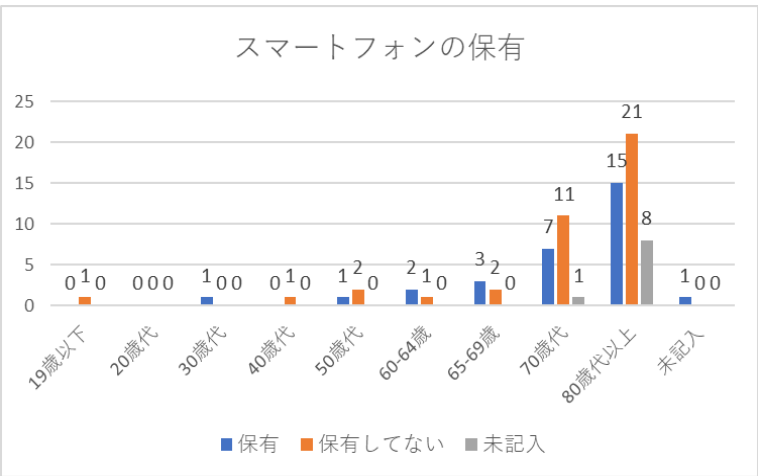


図 5-3(スマートフォンの保有)

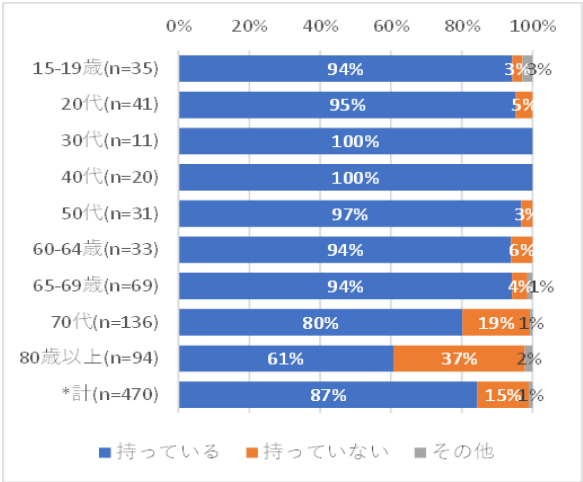


図 5-4(スマートフォンの保有率)
町実施アンケート調査結果より抜粋

5-3.電話予約をした理由

電話予約をした理由については、「WEBで予約することを知らない」という回答は 3 人、「ネットの使い方がわからないため」、「ネットが使えない」という回答がそれぞれ 10 人となった。(図 5-5)

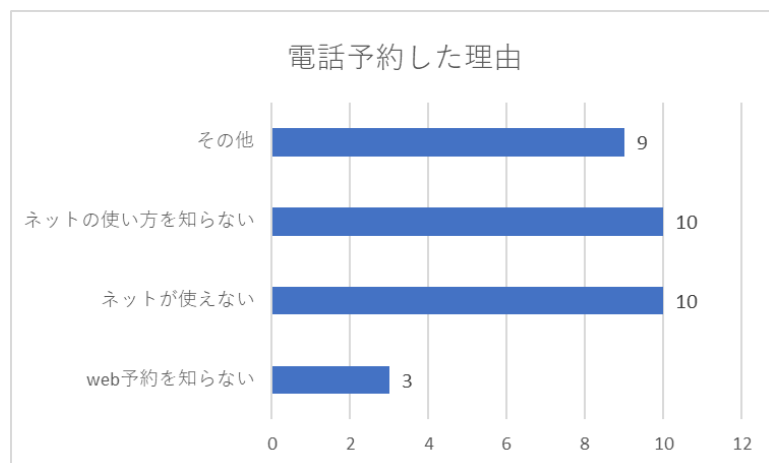


図 5-5(電話予約をした理由)

5-4.インターネット(WEB)予約

インターネット予約(WEB)予約での難易度は、「簡単だった」という回答が 4 人次いで、「普通だった」という回答が 2 人となっている。

「少し難しい」や「難しい」という回答はいずれも 0 人となり、WEB予約をする難易度はさほど高くないといった結果になった。(図 5-6)

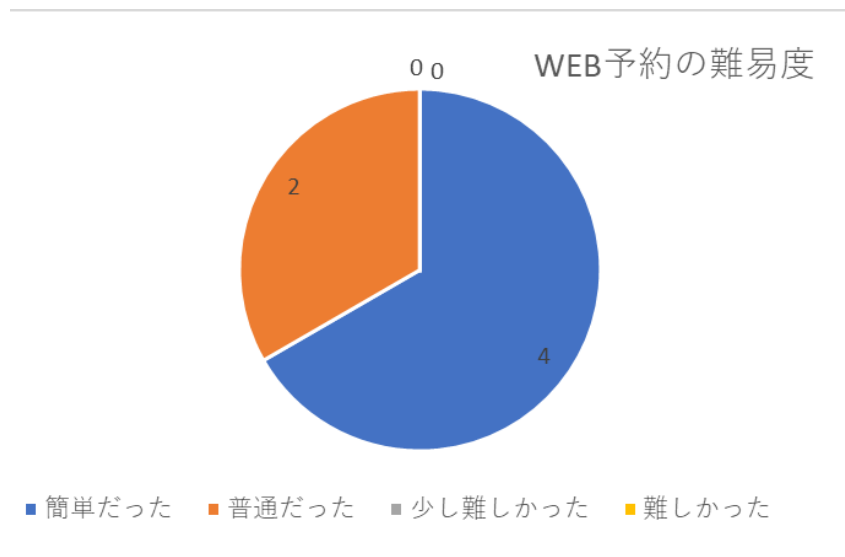


図 5-6(インターネット(WEB)予約の難易度)

6.料金(運賃)の支払方法

料金の支払い方法で利用したいものについては、「回数券と現金の併用」が 40%次いで、回数券のみが 27%、「現金のみ」が 20%、「電子決済サービス」については 0%となった。(図 6-1)

年代別にみると、80 歳代では「回数券と現金の併用」が 17 票と多く次いで、「回数券のみ」が 15 票である。また、70 歳代でも、「回数券と現金の併用」が 12 票と多く次いで、「回数券のみ」が 4 票となった。(図 6-2)

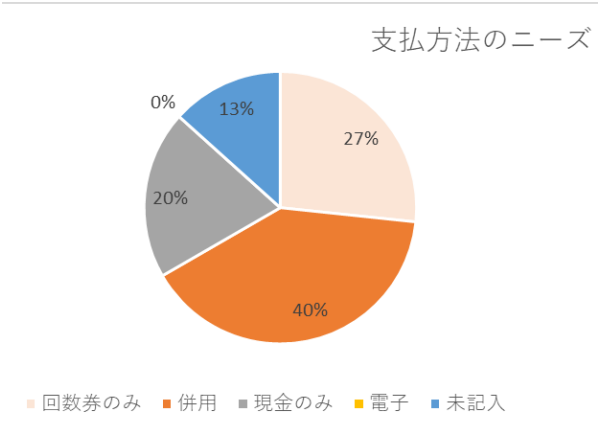


図 6-1(利用したい支払方法)

	回数券のみ	併用	現金のみ	電子	未記入
19歳以下	0	1	0	0	0
20歳代	1	1	1	0	0
30歳代	1	0	2	0	0
40歳代	0	2	1	0	0
50歳代	0	0	3	0	1
60-64歳	1	0	1	0	1
65-69歳	2	2	2	0	0
70歳代	4	12	3	0	2
80歳代	15	17	5	0	8
未記入	0	1	0	0	0
合計	24	36	18	0	12

図 6-2(利用したい支払方法の分布)

7.利用満足度

利用満足度では、普通が 41%と最も多く次いで、高いが 30%、少し高いが 15%、少し低いが 6%、低いと 5%で、普通から高いという回答は約 9 割となった。

また、町が実施したアンケート調査結果で、旧あし丸くんは便利かという設問に対し、合計で「とても便利(25%)」と「やや便利(43%)」を合わせて約 7 割が便利に感じていた。

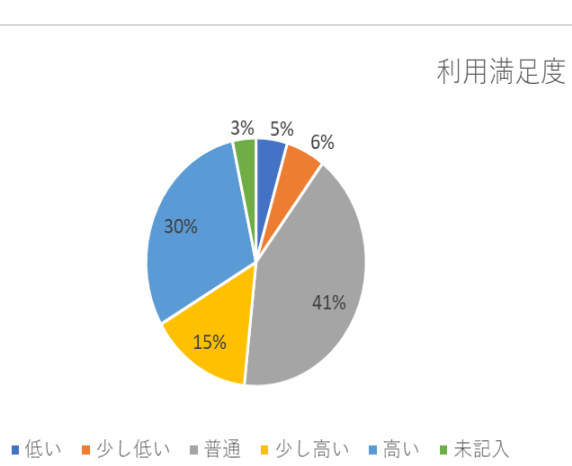


図 7-1(利用満足度)

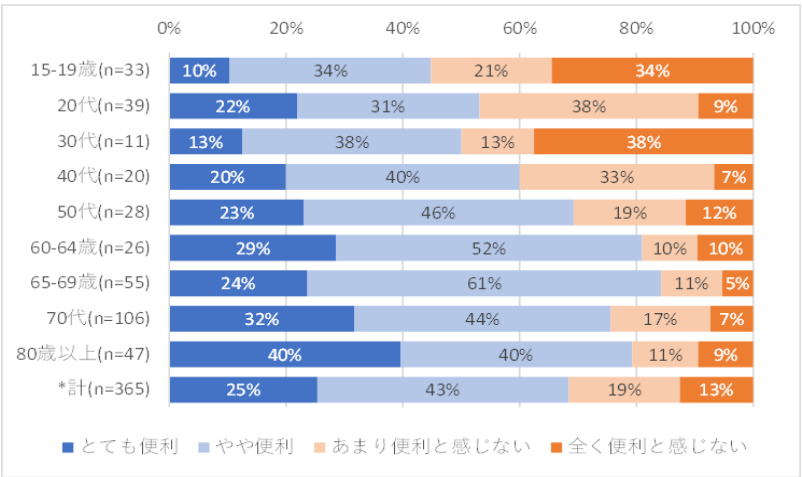


図 7-2(利用満足度(旧あし丸くん))
町実施アンケート調査結果より抜粋

8.今後の利用について

今後の利用希望については、「ぜひ利用したい」が 70%と最も多く次いで、「機会があれば利用したい」が 19%となり、「あまり利用したくない」と「利用したくない」については 0%ずつという結果になった。(図 8-1)

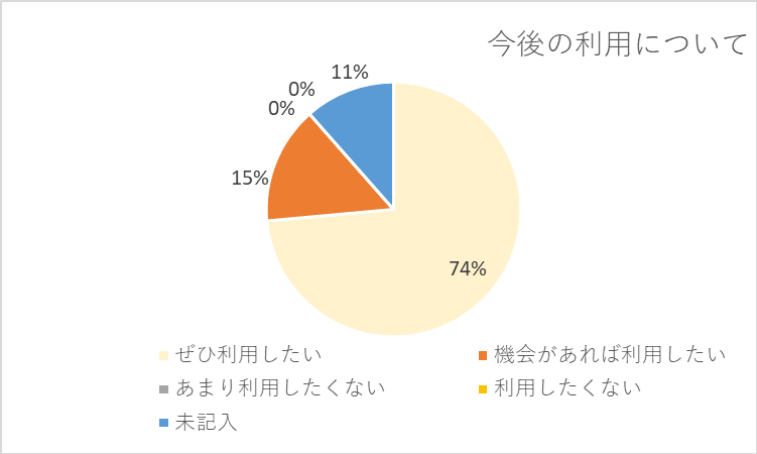


図 8-1(今後の利用について)

9.自由回答(自由記述)

内容	年齢	性別	居住地区
あし丸くんがないと本当に困ります	80 歳以上	回答しない	町内
・あし丸君はあったほうが良い ・以前のように時間が決まっていた方が良い。	80 歳以上	回答しない	筆甫
高齢化により是非利用したい	80 歳以上	女性	筆甫
電話したら良く教えてくれた	80 歳以上	女性	筆甫
あし丸くん便利で助かっています。これからもよろしくをお願いします。	80 歳以上	女性	金山
前みたいに時間があると良い	80 歳以上	女性	大内
時間をきめてる方が安心です。	80 歳以上	女性	筆甫
定期の時間がほしい。	80 歳以上	女性	丸森
時間を決めて欲しい。	80 歳以上	女性	丸森
家まで来て頂けるので便利でありがたいです。	80 歳以上	女性	筆甫
通院も喜んで行けます。予約受付の方、運転手さん親切にいただき有りがとうございます。	80 歳以上	女性	丸森
前の時間通りが良い	80 歳以上	男性	筆甫
前の様に時間が決まってた方がよい	80 歳以上	男性	回答しない
町民のために役立つ車であってほしい。	80 歳以上	男性	大内

待たないで来てくれるからありがたい	80 歳以上	女性	丸森
目的地にすぐに行ける	80 歳以上	女性	大内
時間が無い方が移動しやすい	80 歳以上	回答しない	耕野
ダイヤを無くしていただいてありがとうございます。	80 歳以上	回答しない	小斎
どこにでも行ける素晴らしい企画だと思います	80 歳以上	回答しない	館矢間
料金が安すぎる。町を破綻させる気なのか？	80 歳以上	回答しない	小斎
すぐ来ることはいいことだが、乗る側の気持ちも考えてゆっくり来てほしい。	60～64 歳	女性	大内
車の台数が多いと、利用しやすくなると思う。	60～64 歳	女性	大内
予約を 10 日前ごろからとれるようにしてほしい。	50 歳代	女性	耕野
用事などで使わせていただいています。	50 歳代	女性	大張
帰りの便(大張)を増やして欲しい。	50 歳代	男性	大張
お昼に帰れないから不便。	40 歳代	女性	大内
天気などでかける時に助かっています。	30 歳代	女性	大内
リーズナブルで、とても助かります。領収証が発行できるとうれしいです。	30 歳代	男性	山形県

巻末資料～アンケート調査票～

【あし丸くん実証実験】 アンケート調査票 ** 2分程度で回答できます **

質問1 あなたの年齢や性別などについて、当てはまるものに○をつけてください。

年 齢	①19 歳以下 ②20 代 ③30 代 ④40 代 ⑤50 代 ⑥60～64 歳 ⑦65～69 歳 ⑧70 代 ⑨80 歳以上
性 別	①男性 ②女性 ③回答しない
お住まい	①丸森町内 …地区名 ①丸森 ②金山 ③筆甫 ④大内 ⑤小斎 ⑥館矢間 ⑦大張 ⑧耕野 ②丸森町外 (都・道・府・県 市・町・村)

質問2 あなたはあし丸くんを利用したことがありますか？

利用状況	①利用したことがある ②利用したことがない
------	-----------------------

質問3 ご利用の理由を教えてください。

①通院 ②通勤・通学 ③観光 ④帰省 ⑤買い物 ⑥その他()

質問4 予約方法について、当てはまるものに○をつけてください。

予約方法	①電話予約 ②インターネット(WEB)予約
------	-----------------------

質問5 (「質問4」で①電話予約と回答された方にお聞きします。) 当てはまるものに○をつけてください。

スマートフォンの保有	①持っている ②持っていない ③その他()
電話予約をした理由	①インターネット(web)予約を知らなかった ②インターネットが使えないため ③インターネットの使い方がわからないため ④その他()

質問6 (「質問4」で②インターネット(WEB)予約と回答された方にお聞きします。) 当てはまるものに○をつけてください。

予約方法	①簡単だった ②普通だった ③少し難しかった ④難しかった
------	-------------------------------

質問7 料金(運賃)支払方法で利用しやすいものにすべて○をつけてください。

支払方法	①回数券のみ ②回数券と現金の併用 ③現金のみ ④電子決済サービス
------	-----------------------------------

質問8 利用満足度を教えてください。(いずれかに○を付けてください)

1 2 3 4 5
満足度が低い 普通 満足度が高い

質問9 今後の利用について教えてください。

今後の利用	①ぜひ利用したい ②機会があれば利用したい ③あまり利用したくない ④利用したくない
-------	--

ご協力ありがとうございました

ご意見・ご感想があれば自由に記載してください

調査実施主体・問い合わせ先

丸森町 商工会 0224-72-1230

丸森町 企画財政課 0224-72-3024